

---

# 俺得アニメキャラオールスターで逃走中！

ゆうやん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺得アニメキャラオールスターで逃走中！

### 【Nコード】

N5353P

### 【作者名】

ゆっやん

### 【あらすじ】

どう考えても俺しか得しないアニメキャラで逃走中をするというものです。

けいおん！、とらドラ！、バカテス、とある魔術の禁書目録、WORKING！！、化物語の6作品からのキャラが登場します。

初心者なので優しく見守ってください。

## 始めの挨拶

今回始めて逃走中の小説を書かせていただく「ゆうやん」です。  
逃走中の大ファンでいつか書いてみたいと思ったからです。  
そしてとある方の逃走中の小説を読んだ影響です。

正直過度な期待はしないでください。

あまり文章書くのが上手ではないので)

またアニメキャラが多数参加されます。

キャラ崩壊があるかもしれませんが、その辺はご了承ください。

そんな私ですが感想をくれるとすごい喜びます。

作品に対しての悪い点などを書いてもらってもかまいません。

初心者なのでむしろそういうコメントはありがたく受け止めます。

色々と不束者ですが、よろしくお願いします。

## 逃走者&逃走エリア説明

ここでは逃走者と逃走エリアについて説明したいと思います。  
まずは逃走者について。

けいおん！（6人）

- ・平沢唯
- ・秋山澪
- ・田井中律
- ・琴吹紬
- ・中野梓
- ・平沢憂

とらドラ！（4人）

- ・高須竜児
- ・逢坂大河
- ・櫛枝実乃梨
- ・川嶋亜美

バカとテストと召喚獣（4人）

- ・吉井明久
- ・姫路瑞希
- ・島田美波
- ・木下秀吉

とある魔術の禁書目録（2人）

- ・上条当麻
- ・御坂美琴

WORKING!! (2人)

- ・伊波まひる
- ・種島ぽぷら

化物語 (1人)

- ・千石撫子

以上の19人が今回逃走中に参加する事になります。

続いては逃走エリアについての説明です。

舞台はとある市内をモデルとしている『平梅市』。

東京ドームおよそ10個分の広さです。

北には世界遺産にも登録されている平梅城があります。

南には平梅駅前の大通りを中心に数多くのビルが建っています。

逃走者は交通機関に従って、逃走してもらいます。

またビルの中など他人の私有地に入る事はできません。

1秒200円ごと上昇し、120分逃げ切ると144万円獲得できます。

ただし捕まってしまうと0円になります。

ゲーム途中に自首をすればそれまでの賞金を獲得できます。

そのためにはエリア内にある何箇所かの公衆電話を使って自首する必要があります。

## 逃走者&逃走エリア説明（後書き）

スローペースでがんばります。

途中で飽きないのが目標です（え

## ゲームスタート

夜明け前、世界遺産の平梅城の前に集められた19人の逃走者達…  
彼らを待ち受けるのは…恐怖のオーブニングゲームであった！

「これよりゲームを始める…！」

どこからか聞こえてくる謎の低い声のアナウンスが彼らに恐怖を与える。

「君達の目の前に居るのは4体のハンター。」

そして色分けされている鎖が全部で19本ボックスの目の前にある。

ただしその内1本だけがボックスを開放するハズレの鎖だ。

それを引いた瞬間ハンター4体が同時に解き放たれ、ゲームスタートとなる…！」

ハンターから逃走者達の距離は20m。

一人一人が順番にボックスの目の前に行き、鎖を引かなくてはならない。

唯「私は8番か〜」

憂「私は9番だ！お姉ちゃんの後だね！」

順番は事前のクジで決定している。

全ては運次第である。

明久「姫路さん！がんばって！」

瑞希「はいっ！がんばります！」

トップバッターは『バカとテストと召喚獣』より姫路瑞希。  
果たして何色を選ぶのであろうか？

瑞希「では、桃色で行きます！」

ぽぷら「ピンク色好きそうだもんね！」

美琴「大丈夫よ！19本あるんだから安心して行きなさい！」

他の逃走者達よりも一歩前に出る姫路は失敗した際にハンターに捕まるリスクが高い。

瑞希「一発目でハンター出たらごめんなさい！」

ハズレを引いた瞬間…恐怖のゲームがスタートする！  
果たしてクリアか…それともハンター放出か？

瑞希「行きます！」

ジャラララッ！

シーン…

姫路「成功…でいいんですね？」  
木下「もちろんじゃ。ハンターが出る前に早く遠い場所に逃げたほうがいいのお」

姫路瑞希、成功。

鎖を引くのに成功した逃走者は他の逃走者達よりもいち早く遠くに逃げる事ができる。

島田「よくやったわ瑞希！さすがよ！」

姫路「ではお先に失礼します。皆さんがんばってください！」

続いて2番目に鎖を引くのは『WORKING!』より伊波まひる。

まひる「もしハンター出てきたら…殴っちゃうかも」

ぽぷら「伊波ちゃん！それはハンターさんがかわいそうだからやめてあげて！そのために今日小鳥遊君ともう特訓してきたんでしょ！」

今回の逃走中に出るにあたって、まひるはバイト仲間の小鳥遊宗太が協力してくれたお陰でなんとかハンターを殴らないようにすることに成功した。

でも完璧に殴らないとは限らないので何かの弾みで殴ってしまう可能性もあるかもしれないがその時はその時だ。

まひる「とりあえず白色行かせてください」

律「お嬢ちゃん、それはどうしてだい！？」

まひる「なんとなく…かな。」

ハズレを引いた瞬間…恐怖のゲームがスタートする！

果たしてクリアか…それともハンター放出か？

まひる「ええいつ！」

ジャラララッ！

シーン…

まひる「良かった…ハンターが出てきたら本気で殴ろうかと…」  
ぽぷら「（小鳥遊君、まひるちゃんとの特訓きつと大変だったんだね）」

そしてこの後も…

3 番目、櫛枝実乃梨

ジャラララッ！

シーン…

実乃梨「やったぜ！」

大河「さすがみのりん！」

4 番目、琴吹紬

ジャラララッ！

シーン…

梓「ムギ先輩すごい…！」

5 番目、逢坂大河

大河「どりゃあ！」

ジャラララッ！

シーン…

大河「どんなもんよ！」

亜美「いいから早く逃げろよ」

6 番目、秋山 澪

ジャラララッ！

シーン…

澪「死ぬかと思ったあ…」

律「ほら、もう大丈夫だから」

7 番目、木下 秀吉

ジャラララッ！

シーン…

秀吉「なんとか成功したのお」

8 番目、平沢 唯

ジャラララッ！

シーン…

憂「お姉ちゃんすごいよ！」  
唯「えへへ、そうかな？」

9 番目、平沢憂

ジャラララッ！

シーン…

梓「憂ちゃんまで…すごい」  
憂「お姉ちゃんのお陰だね、きつと！」

10 番目、種島ぼぶら

ジャラララッ！

シーン…

ぼぶら「なんとかハズレを引かずにがんばれたよ！」

11 番目、千石撫子

ジャラララッ！

シーン…

撫子「一人だけがんばるよ！」

以上の11人が成功した。

まだ平梅城に残っている逃走者は9名。

誰がハズレを引くことになるのだろうか？

続いて12番目に鎖を引くのは『とある魔術の禁書目録』より上条当麻。

当麻「ついに私、上条当麻の出番が来ましたか。」

美琴「（まさかあいつ…ここで引くなんて事はないよね？）」

身の回りで不幸な事が起こっている上条当麻。  
果たして今回は大丈夫なのであろうか？

上条「じゃあ適当に黒でいきますか」

ハズレを引いた瞬間…恐怖のゲームがスタートする！  
果たしてクリアか…それともハンター放出か？

上条「どりゃあ！」

ジャラララッ！

ガコン…！

明久「出たあああああああ！」

美琴「なにやってるんのよ、あのバカ！」

ハズレを引いてしまった上条当麻。

これよりハンターが放出され、ゲームが始まった。

当麻「不幸だあああああああああああ！」

当麻がある逃走者を抜かし、逃げていく。

そして運悪く当麻に抜かされ、ハンター達に新たに標的にされたのは…

梓「…！」

中野梓だ。

梓「い…や……………だ……………」

ポンツ！

【中野梓 確保 残り18人】

梓「これもくじ運が悪かったのかも…なんにしてもついてないよ…。」

プルルルル！プルルルル！

唯「携帯がなっている…ってあずにゃん確保！？残り18人」

漣「梓、ハズレ引いちゃったのか…」

確保情報などはそれぞれに支給された携帯電話を通じてメールで通知される。

当麻「悪かった！本当にすまなかった…！」

エリア内には放出された4体のハンター。  
そのハンターから逃げた時間に応じて賞金が獲得できるゲーム。  
それが…

run for money 逃走中！

## ゲームスタート（後書き）

書き始めの頃ってなんかすごく興奮したり楽しくなったりするのはあるあるネタに違いない。

ちなみにくじの順番については実際に抽選ソフトでやらせていただきました。

通達 1 裏切り者!?? (前書き)

初感想 k t k r

感想もらつとやっぱりがんばろつと気になれる。

## 通達 1 ～裏切り者！～

今回の逃走舞台は『平梅市』、逃走エリアは東京ドームおよそ10個分の広さだ。

北には世界遺産にも登録されている平梅城があり、南には平梅駅前の大通りを中心に数多くのビルが建っている。

逃走者達には交通機関に従って、逃走してもらう。

ただしビルの中など他人の私有地に入る事はできない。

律「2分経っただけで24000円も溜まっているよ！すごいな…これ。」

賞金は1秒200円ごと上昇し、120分逃げ切ると144万円獲得。

さらにこのゲームでは自首も可能。

エリア内にある何箇所かの公衆電話で本部に連絡をすればその時点までの賞金を獲得できる！

ただしエリア内には4体のハンター！

彼らに捕まれば賞金は…0円だ。

秀吉「これはスリルがあつて実に面白いの。それで賞金が獲得できるのだから一石二鳥…！」

『バカとテストと召喚獣』からの木下秀吉。  
彼が遠くに発見したのは…

ハンター「…」

ハンターであつた。

ハンターは脅威のスピードと持久力を持つ。

逃げ切るのは容易ではない。

秀吉「なんとか上手く行ったようじゃが…一応この辺にいとくかの」

彼らはエリア内をくまなく搜索する。

逃走者達に安全な場所など…ない。

プルルルル！プルルルル！

撫子「今度はなんだろ…『通達1』？」

瑞希「『裏切り者を今から2分の間に先着1名だけ募集する…』」

実乃梨「裏切り者は他の逃走者の位置情報を携帯電話でハンターに通報可能で、通報での確保1件につき賞金+10万円だが…」

憂「本人が確保されてしまったら0円。本部に連絡すれば立候補できるが、強制ではない。』…どういうこと？」

通達1

裏切り者募集！

現在のエリア内には4体のハンターがいる。

そのハンターに他の逃走者の位置情報を教えるのが『裏切り者』だ。その通報によつて確保された逃走者一人につき『裏切り者』は逃走成功時（自首成功時也可）に+10万円がもらえるのだ。

ただし『裏切り者』自身がハンターに捕まってしまうたらその賞金

も全て没収となる。

やりたければ携帯で本部に連絡をして立候補すればいいが、先着1名だけである。

また、立候補者がいなければこの話はなかった事になる。

美波「『裏切り者』なんてやるわけじゃない！みんないい人そうだったし絶対に誰もやらないよ！」

紬「こればかりは皆さんを信じるしかないみたいね…」

そして約束の時間が過ぎていく。  
通達1終了時まであと30秒…

プルルルル！プルルルル！

と、その時に本部に連絡が入った。

「？」「？？」です。『裏切り者』に立候補します。」

この瞬間、逃走者18名の中に1名が『裏切り者』へとなったのだ…

プルルルル！プルルルル！

漣「またメールだ、えっと…『裏切り者』への立候補が一人現れた。…え？」

明久「『裏切り者』は現在逃走している18人の中の内の一人だ。気をつけて行動したほうがいい。」だって…」

亜美「まじかよ…これじゃあハンターだけじゃなくて逃走者も安易に信用できなくなっただけだ…」

愚痴をぼろぼろと言っている亜美に近づく人物。  
その人物が彼女の姿を…捕らえた。

??「川嶋亜美、平梅城西郵便局の前にいます。」

裏切り者の通報によりハンターが動きを止め、そして一斉にその場所へと急ぐ。

もちろん彼女はこの事実気づいていない。

亜美「とりあえずこの辺にいとけば大丈夫…じゃないよな…！」

亜美がこちらへ向かってくるハンターに気づいた。

しかしハンターが彼女を捕まえるためには一旦道路を横断しないといけない。

赤信号のために渡れないハンターを確認すると一目残に逃げ出した。

亜美「よかった…なんとかハンターを追っ払ったみたい」

彼女がそう安心した矢先、目の前から彼女の姿を捕らえた別のハンターが追ってきた。

そのハンターに気づいた亜美は来た道を逆戻りするしかなかったのだ。

なぜなら彼女が逃げた先は一本道であつたからだ。

亜美「そんな…まさか裏切り者が…！」

戻った先にも先ほど赤信号で渡れなかったハンターが来ていた。  
そして亜美は結局挟み撃ちにされて…捕まった。

亜美「裏切り者見つけたら後でぶっ飛ばしてやる…」

【川嶋亜美 裏切り者の通報によって平梅城西郵便局付近にて確保残り17名】

プルルルル！プルルルル！

大河「ばかりーもう確保されたの！？早くね！？」

高須「『裏切り者の通報』…か」

裏切り者の通報によつての確保のニュースがすぐに飛び込んできた。逃走者達にはその怖さと思う存分わかつただろう。

- - 残り113分

通達！裏切り者！？（後書き）

今回の逃走中に関してはとある市内を舞台にしています。  
なのでその地図を使って一応書いているところですかね。

後脱字が多いのは気にしないでください。  
デフォルトだと思ってくれれば（あ

## ミッション1 Part1 エリア拡大へと急げ！ (前書き)

感想たくさん頂き、本当に感謝しています。

皆さんの期待にこたえられるかどうかわかりませんががんばります！

しかし感想を頂くとまた書きたくなくなってしまふ。

## ミッション1 Part1 エリア拡大へと急げ！

エリア内でハンターから逃げている逃走者達。

彼らの中に裏切り者が1人いるというのが果たして…？

見通しのいい平松郵便局前にて身を潜める吉井明久。

そんな彼に1本の電話が…

明久「もしもし？」

美波「アキ！まさかあんたが裏切り者じゃないでしょうね？」

明久「どうして僕を疑うんだ！根拠もないのにひどいぞ！」

美波「だってあんたバカじゃない、金にすぐ飛びつきそうだし。」

明久「そんな…僕泣いていいよね？泣いていいんだよね？」

美波はクラスメイトの明久に電話をかけていた。

彼が裏切り者かどうかを知るためであった。

美波「まあいいや、もしあんたが裏切り者だったら覚悟しなさいよ。  
じゃあね！」

明久「ちよっ…美波はどこまで僕の事を…電話切れた…」

信用されていない男であった…。

ばぶら「もう9万円も溜まってる！これで終わりにしてもいいk」  
プルルルル！プルルルル！」メールだ。なにになに…『ミッション1  
…』

美琴「今から平梅駅前を中心としたエリアを開放する。残り105分までにそのエリア内のどこかにあるボタンを押すと…」

憂「そのエリアが以後逃走可能となる。しかし105分までにボタンを押せなかった場合…」

唯「そのエリアに残っている全逃走者は強制失格となる。気をつけたまえ」…エリア拡大か」

ミッション1…逃走エリアを拡大せよ！

今から平梅駅前を含む平梅市の南エリアを解放する。

広さは東京ドームおよそ3個分くらいだ。

ゲーム残り105分までにその南エリア内のどこかに隠されているボタンを押すとゲーム終了までそのエリアが逃走可能となる。

だが時間内にボタンを押せなかった場合は再封鎖され、そこに残っている逃走者は全員強制失格となる。

紬「多分誰かがやってくれるかもしれませんが。それに裏切り者とかもいるから危ないですし…」

まひる「でもすでにエリア広いから…別に行かなくてもいいかも」

ミッションに参加するかは逃走者次第。

ミッションに参加するとハンターに見つかるリスクが高まる。

実乃梨「エリア拡大して損はないし行こう！」

竜児「こういうのは数少ない男子がやるもんだよな…」

当麻「よしいくか！さっきの子に悪い事しちゃったしミッション全部クリアするぐらいじゃないと許してくれなさそうだよな…ああ…不幸だ。」

ミッションへ向かうのは高須竜児、櫛枝実乃梨、上条当麻の3人のようだ。

誰かがボタンを押せば全員がそのエリアを逃走可能となる。果たしてミッション成功となるのか！？

ミッションへ向かう上条当麻。

彼が向かう先に…

ハンター「…」

ハンターが…！

どうやらハンターがいるせいで足止めを喰らっているようだ。

当麻「こんなんじゃないつまで経っても着けないって…」

エリア中央に流れている川を渡って、南エリアの開放へと急ぐ高須竜児。

彼が橋を渡っているときにある人物を見つけた。

実乃梨「おお、高須君！ミッションへ行くつもりですか？」

竜児「櫛枝…！」

かつて自分が好きだったクラスメイト、櫛枝実乃梨であった。

実乃梨「私もミッションに行くんだ。だから途中まで一緒に行こうか！」

竜児「お…おう」

エリア拡大へと急ぐ二人が合流した。

残り105分までにどちらか1人でもボタンを押せばミッション成功となる。

果たして間に合うのか！？

紬「自首しようかな…」

自首に心が揺らぐお嬢様。

彼女は今デパート前の大型広場にいる。

紬「とりあえず唯ちゃんに電話でもしてみようかしら」

携帯電話を取り出し唯に連絡をする紬。

紬「もしもし？唯ちゃん今どこにいるの？」

唯「私はね〜平梅城かな〜。そっちは？」

紬「こっちはエリア中央にあるハイパーデパート前の広場…きゃっ  
！」

ハンター「…！」

電話している最中にハンターに見つかってしまった…。

唯「ムギちゃん！？どうしたの…って電話が切れちゃった。」

電話の相手であった唯は彼女の事を心配する。

もしかしたらハンターに見つかってしまったのではないか…  
だったらがんばって逃げて…と。

紬「はあ…はあ…」

必死に逃げる紬。

しかしハンターとの距離は徐々に縮まっていき、そして…

紬「あ…」 ポンッ！

確保されてしまった。

紬「あの時周りをちゃんと見ていれば…！」

【琴吹紬 吹雪医院前にて確保 残り16名】

プルルルル！プルルルル！

唯「メールだ。あ…ムギちゃんが…」

美琴「捕まるペース速いって…！」

ゲーム開始から10分ぐらいしか経っていないのに3名が確保されてしまった。

果たして逃げ切る者は現れるのだろうか！？

- - - 残り108分

## ミッション1 Part1}エリア拡大へと急げ！}(後書き)

確保者は中野梓、川嶋亜美、琴吹紬の3名。  
牢獄トークは後ほどあるかもしれません。

## ミッション1 Part2}エリア拡大となるか!??}(前書き)

昨日のアクセス数は丁度1000。

これだけ見てくれると言っのを知るとなんかすごくうれしい。

また感想もありがとうございます。

## ミッション1 Part2}エリア拡大となるか!??

ミッション1終了まで残り3分となった。

現在ミッション1へ動いているのは高須竜児、櫛枝実乃梨、上条当麻の3名。

果たして間に合うのか!?

実乃梨「じゃあ私は向こうの方を見てくる。高須君はこの平梅駅前周辺お願い。」

竜児「おう!」

目的のエリアに着いた高須竜児と櫛枝実乃梨。

竜児は平梅駅周辺、実乃梨はホテルが立ち並ぶエリアの南へ行くようだ。

竜児「なんとしても探さないとな...」

当麻「ついにハンターから逃れてやってきましたよ。」

上条当麻も目的のエリアへと着いたようだ。

平梅駅は西側にあり、竜児と実乃梨ペアは西側からボタンを探して

いる。

大して当麻はエリアの東側から入ったため東側から探すようだ。偶然だがかなり効率がいいと言っていていいだろう。

当麻「結構な広さだが…まあやれるだけやってみますか。」

唯「エリア拡大に行こう！」

残り3分を切ってエリア拡大のミッションへ向かう平沢唯。彼女から目的のエリアに行くまで約600mの距離はある。何故彼女は行くと決心したのだろうか？

唯「ムギちゃんが捕まっちゃったんだもん…もうこれ以上他の人が確保されるのを知りたくないよ！」

先ほどの琴吹紬の確保でどうやら心が動いたようだ。

電話の相手で確保直前まで話してたというのもあるだろう。

果たして彼女の苦勞は報われるのだろうか！？

…ミッション終了まで残り2分

平梅駅前の『パイロットイン平梅』というホテルの前に身を潜める

のは千石撫子。

撫子「皆はミッションに行ったのかな…たて行ったとしてもハンターが怖くて私は行けないよ…」

そんな彼女に近づくある人物。  
それは…

竜児「あ、こんにちは」

平梅駅前を探索している高須竜児であった。  
撫子は彼が急に來られたのでハンターだと思ってビックリしてしまった。

竜児「この辺にエリア拡大のボタン見なかったかな？」

撫子「ここからあまり動いてないので…でもこの辺にはないと思う」  
竜児「そうか、ありがとう」

彼は彼女の言う事を信じ、南の方へと向かっていった…。

…ミッション終了まで残り1分

実乃梨「見つからない…このままだと失格になっちゃうよ…」

南エリアの中央を探す櫛枝実乃梨。

現在彼女は坂下デパート付近の交差点で青になるのを待っている。  
そんな彼女に忍び寄る黒い影…

ハンター「…！」

そして見つかってしまった。

実乃梨「ハンター来てるよ…」

交差点が青になった瞬間ダッシュして交差点を渡る。

実乃梨は女子ソフトボールのキャプテン。

毎日トレーニングは欠かさない彼女は体力と持久力にはかなりの自信がある。

ハンター「…」

ハンターも彼女を必死に追っていく。

しかしハンターが交差点を渡りきった頃には…

ハンター「…？」

彼女を見失っていた。

なんと実乃梨はハンターを撒いたのであった。

実乃梨「はあ…はあ…」

逃げた先はホテルカンパニーやパチンコ店「10万ドル」などが近くにある平梅駅前記念公園。

市内とは思えないくらい落ち着く場所として有名な公園である。

下は駐車場となっているが、逃走エリアにはなっていない。

実乃梨「あ…あつた！」

そして公園の真ん中に置いてあるボタンがある機械。

この時すでにミッション1終了まで残り10秒。

果たして間に合うのか！？

実乃梨「あと少し…あれぐらいで疲れてたらキャプテンは務まらない…！」

急いで公園の中央へと向かう櫛枝実乃梨。

そして…

実乃梨「おりゃあ！」 ポチッ！

ボタンを押すのに成功した。

この時の残り時間は105:03。

本当にぎりぎりであった。

プルルルル！プルルルル！

竜児「『ミッション1成功。櫛枝実乃梨の活躍により南エリアはゲーム終了まで逃走エリアとなる。』 櫛枝すげえ…」

大河「さすがみのりん！すごい！」

実乃梨「とりあえず少し休んでいこう…1分くらい休めばなんとか

なるかも」

ミッションに貢献した櫛枝実乃梨。

そんな彼女を遠くから見守るある人物が…

??「櫛枝実乃梨、平梅駅前記念公園にいます!」

ハンター「…!」

その連絡を聞いたハンターが一斉に公園へと集まっていく。  
果たして櫛枝実乃梨は逃げれるのだろうか!?

- - 残り104分

ミッション1 Part2}エリア拡大となるか!?!(後書き)

今日までになんとかもう1話投稿したい…!

ミッション2 Part1〜ハンター放出を阻止せよ〜（前書き）

感想たくさんうれしい限り。

前書きはいつもこんな感じではないです。

でも本当にうれしいんです。

## ミッション2 Part1 〓ハンター放出を阻止せよ〓

ミッション1に貢献して、エリアを拡大させた櫛枝実乃梨。  
そんな彼女を…

??「櫛枝実乃梨、平梅駅前記念公園にいます!」

裏切り者が通報。

果たして逃げ切れるのか!?

実乃梨「…!」

公園で休む櫛枝実乃梨。

どうやらハンターが近づいてくるのに気づいたようだ。

実乃梨「参ったな…」

公園を急いで抜け出し、坂上デパート前の交差点へと向かう。  
しかし逃げた先にも別のハンターが…

実乃梨「向こうから来てる…ということはこっちに逃げるしかない  
!」

後ろからもハンター、道路の向こう側にもハンターという状況。  
彼女はとにかくハンターがいない方向へと走り続ける…!

実乃梨「はあ…はあ…」

元々ミッションで疲れていたのもあるだろう。

後ろから来るハンターとの距離は徐々に縮まっていき、そして…

実乃梨「あ…」 ポンッ！

捕まってしまった。

【櫛枝実乃梨 裏切り者の通報により平梅電鉄バスターミナル付近にて確保 残り15名】

ブルルルル！ブルルルル！

竜児「『裏切り者の通報により平梅電鉄バスターミナル付近にて櫛

枝実乃梨 確保…」

大河「残り15名』…みのりんまで捕まった…。」

実乃梨「いい事したのにな…」

ハンターからは逃れることはできても裏切り者の恐怖からは逃れることはできなかったようだ…！

丁度その頃…

平梅市では新たな市長が誕生していた。

秘書（演：土屋康太）「やりましたね…坂本市長」

市長（演：坂本雄二）「ああ…この日を待っていたのだ」

平梅市の新たな市長を決める投票にて当選が決まった坂本新市長。  
彼は今秘書である土屋と喜びを分かち合っている。

秘書「例の物…すでに手配しています」

市長「さすがだム…土屋秘書。」

なにやら今回市長になったお祝いとしてパレードを行うそうだ。  
そして彼らがこれから行おうとしているそのパレードが後に逃走者  
に影響を与えることとなるのだ…。

明久「メール来た来た…『ミッション2…』」

当麻「平梅市の新市長になった坂本。彼は市長になった際のお祝い  
としてパレードを行うことにしたそうだ…」

ぽづら「残り90分までに平梅市内に設置されている計10個のハン  
ターボックスについているレバーを2人同時に引かなければハン  
ターが放出、最高14体となる。』…多すぎるよ!」

ミッション2…ハンター放出を阻止せよ!

現在平梅市では新市長である坂本が乗ったパレードカーが走行中。  
そんな彼へのプレゼントとして事前に秘書である土屋が花火師に頼  
み、市全体が祝ってくれるようにと合計10個のハンターボックス  
兼花火が設置された。

残り90分までにハンターボックスの近くについているレバー2つ

を引かなければお祝いの花火が打ちあがり、その衝撃でハンターが放出されてしまう。

当麻「一緒にミッション行きますか？」

唯「うん、ハンター増えるのいやだから…」

当麻「じゃあ行くか！」

偶然近くにいた平沢唯と上条当麻、

美波「アキ！一緒にミッション行くわよ！」

明久「嫌だよ……！だってハンターに見つかりやすくなっちゃうじゃないか！」

美波「ハンター10体だよ！？そっちの方が危ないでしょ！今からそっちに向かうからいる場所教えて！」

明久「僕は平梅郵便局前にいるよ」

美波「私は橘橋、その郵便局がある通りと同じ通りにある橋よ」

明久「わかった、待ってるよ」

電話で連絡を取り合い、ミッションへ動こうとする吉井明久と島田美波の4人がミッションへと向かうようだ。

果たしてどれだけの数を封鎖できるのか！？

- - 残り101分

## ミッション2 Part1〜ハンター放出を阻止せよ〜（後書き）

ちなみに平梅駅付近には数々のお店などがあります。

先ほど撫子が隠れていた『パイロットホテル』は平梅駅南側、道路を挟むと『コンパデパート』。『平梅電鉄バスターミナル』とくつついてます。

その『コンパデパート』の近くには『坂下デパート』があります。

一方平梅駅北側には平梅駅前の信号から次の北側の信号機までのに三つホテルが立ち並んでいます。（二つの距離間は大体200m）

平梅駅とは反対側にある『ホテル水道橋』。

平梅駅側には『ホテルニューカマーズ』や『ウルトラホテル平梅駅前』があります。

今後この建物が出てくる可能性がありますのでその時は「この辺にあるのか」とでも思ってください。

分かりにくくてすみません…！

## ミッション2 Part2}ハンター放出を阻止せよ！ 当麻・唯Side}

今回はミッションへ挑んだ当麻&唯にスポットを当てたいと思います。

次回は明久&美波のペアになると思います。

ミッション2 Part2 〽ハンター放出を阻止せよ！ 当麻・唯Side〽

ゲーム残り101分となった。

残り90分までにハンターボックスの近くについているレバー2つを引かなければ花火が打ちあがり、その衝撃でハンターが放出されてしまう。

果たしてどれだけ阻止できるのだろうか！？

唯「当麻君！あそこにあつたよ！」

当麻「でかしたぞ唯！」

南エリアの一番端の平梅ラジオステーション前にハンターボックスを発見した二人。

唯「行くよ！せーのっ！」

当麻「おりゃ！」

ガチャン！

唯「これでOKかな？」

当麻「多分な。」

唯と当麻がハンターボックスを一つ封印。

これで残りのハンターボックスは9個となった…。

今回はどうやらミッションに参加する予定はない高須竜児…

実乃梨が捕まったのがやはり信じられなかったのだろう。

あのスポーツ万能でなんでもできる彼女がハンターに、しかも序盤に捕まってしまうとは。

竜児「あの櫛枝が捕まったからな…俺も慎重に行かないと…ん？」

コンパデパート周辺を歩いているとなにやら怪しげな箱を遠くに発見した竜児…

竜児「あれは…例のハンターボックスじゃないか!？」

彼が発見したのは紛れもなくハンターボックス。

レバーが2つついており、ハンターが中に収納されている。

竜児「仕方ない…ちょっと助けを呼ぶか…」

現在彼は1人という状況。

レバーを引くにはあともう1人必要となる。

そこで彼が電話でどうやらその相手と呼ぶようだ。

その相手とは…

大河「なんだお前か」

竜児「今平梅駅前周辺でハンターボックス見つけたんだよ!ちょっと手伝ってくれないかな!？」

大河「無理。遠いしハンターいるから」

竜児「そうか…なら仕方ないな」

どうやら大河はハンター放出阻止には協力しないようだ。

竜児「じゃあ…始めて会ったけどあの人にするか…」

そしてまたしても電話をかける。

電話をかけたその相手とは…

撫子「もしもし？撫子に何か用ですか？」

先ほどホテル前で偶然会った別の逃走者、千石撫子であった。

竜児「今さ！ハンターボックスを駅前で見つけたんだよ！さっき『パイロットインホテル』にいたから平梅駅に近いと思って電話したんだけど…平梅駅前に来てくれるかな！？」

撫子「ハンター10体出たら大変だもんね…うん、わかった。今から向かうね」

竜児「おお！助かったよ！じゃあ先に待ってる！」

どうやら来てくれる模様。

ハンターが来ないでほしいとただ彼は願うのみであった…。

漣「…ハンター怖いな…」

ゲーム開始からほとんど動いていない秋山漣。

彼女は今平梅城内の公園にいる。  
目の前には世界遺産の平梅城も建っている。

漣「律遅いな…」

そんな彼女の目の前にはハンターボックス。  
ミッション開始からすぐにこのボックスを見つけたが、一人ではどうしようもできないので律に来てもらうように頼んでいたのだ。  
律はエリア中央に流れている川よりは北側のエリアにある館山屋マ  
ンションというのが目の前にある細い道に電話を貰った時にいた。  
平梅城までは結構な距離はある。

漣「早くこのボックス解除したい…」

そんな彼女がいる公園内に誰かが入ってきた。  
そう…ハンターだ。

漣「早く来てくれないとハンターが…いやあああああああああ  
あ！」  
ハンター「…！」

見つけた…。

梓「漣先輩！がんばって下さい！」  
紬「漣ちゃん！」

平梅城前にはすでに捕まってしまった逃走者達の檻がある。  
彼らが応援するも…

漣「いやあああああああ！」 ポンッ！

あっけなく…撃沈。

漣「もつと周り見たほうがよかった…」

【秋山漣 平梅城内公園にて確保 残り14名】

ブルルルル！ブルルルル！

秀吉「メールじゃ。『秋山漣確保 残り14名』」

律「漣…ごめん…！」

エリア中央の大型公民館前にいるのが御坂美琴。

彼女はある事で悩んでいた。

美琴「ミッション行きたいのよね…でもパートナーが必要…」

1人でレバーを引くというミッションならすぐに行っていただろう。  
ただ今回は2人で協力しないといけない。

その協力する相手がいなかったのだ。

…1人除いては。

美琴「だってミッションだもん！そうよ！そういう風に言えばあいつも協力してくれるよね！」

彼女が悩んでいた時間、それは唯一知っている上条当麻に電話をかけるかどうかと言うことだった。

美琴「べ…べつにあいつと一緒に行動したいってわけじゃないんだから…！これはあくまでも皆のためにやるんだから…」

分かりやすいお嬢様である。

美琴「そうよ…これは単なるゲームよ！だからあいつ『おービリビリ！』…ひゃう！？」

気がつくと目の前には電話をかけようかかけないか迷っていた相手、上条当麻がいたのだ。

…後ろに平沢唯という先客を連れて。

当麻「この辺にボックス見なかったか？今向こうでハンターボックス三つ封印してきたのだが…」

当麻と唯はすでにこの時点でハンターボックスを3体封印していた。  
1体目は南エリアの端で平梅ラジオステーション前にあるボックス。  
2体目はホテル『西京センター』の脇にあるボックス。  
3体目は国際生命駅前ビル付近にあるボックスであった。

美琴「み…みてないわ…」

当麻「そうか、じゃあ俺達封印してくるから何かあったら連絡してくれよな！」

唯「お願いします！」

美琴「…」

実に悲しい結末であった。

平梅駅前で合流した高須竜児と千石撫子。

竜児「よく来てくれたね…」

撫子「ハンター増えるのは嫌だから…」

竜児「そうだよね…」

そして2人はボックスのレバーに手をかける。

竜児「じゃあいくよ！」

撫子「せーのっ！」

ガチャン！

竜児「よし！これで1人減ったぞ！」

撫子「わーい」

竜児と撫子がハンターボックスを一つ封印。

これで残りのハンターボックスは6個となった…。

- - 残り95分

ミッション2 Part2 ハンター放出を阻止せよ！ 当麻・唯Side2

まだまだ続きます。

今日でミッション2が終わらせるようにがんばります。

## ミッション2 Part3}ハンター放出を阻止せよ！ 美波・明久Side}

平梅城がある本丸は水堀によって隔てられています。

本丸へ渡るには見通しのいい橋が通常は平梅城内へと入るためなどの観光として入場料金を払う場所である門をくぐる、道を挟めば平梅裁判所がある歩道からの3択です。

## ミッション2 Part3 〽ハンター放出を阻止せよ！ 美波・明久Side

ミッションへ向かった当麻、唯ペア。

残り95分までに彼らは3つのハンターを阻止できた。

そして偶然見つけた竜児は近くの撫子と一緒に1つのハンターを阻止した。

これで残り6つのハンターボックスが残っている。

しかしミッションに挑んだのは彼らだけではない。

明久、美波ペアも同様に阻止しに向かっているのだ。

果たしてどれくらい阻止できたのだろうか？

平梅郵便局前で待機していた吉井明久と合流した島田美波。

彼らは今橘橋方面と向かっている。

美波「そういえば橘付近の商店街でハンターボックス見かけたわ！」

明久「そんなに急がなくてもきつとハンター阻止しているって…」

美波「こういう時に男子ががんばらなくてどうするのよ！参加者のほとんどが女子なのよ！？」

明久「わかってないなあ…女子というのは、優しくおしとやかで、  
見えていて心和癒しのオーラを漂わせる存在であって、美波のようにガサツで乱暴で恐くて胸がないのはごぶぁッ！！！！！！！！！！」

美波の蹴りが炸裂。

明久はかなりの距離飛ばされたようだ。

美波「今日のところは蹴りで我慢してやるわ。アキにはまだやってもらいたいことがあるんだもの。」

明久「すいません、もう言いませんから許してください」

そして第一の目的である商店街へと到着。  
中央にはハンターボックスが立っている。

美波「じゃあいくよ！せーのっ！」

明久「えい！」

ガチャン！

美波と明久により商店街のハンター阻止。  
これで残りは5体…

美波「次は平梅城まで行くわよ！」

明久「あの…僕に拒否権というものは…？」

美波「ないわよ」

明久「ひどい！僕だってry」

こうして2人は平梅城と向かっていった…

律「やっと平梅城に来たわけだが…平梅城公園にボックスがあるって濡に聞いたけど…」

そんな彼女の目の前にはハンターボックスが立っていた。  
確かに平梅城内にあるのだが漣が言っている場所と違う。

律「なんにしても誰か呼ばないとな…とりあえず唯あたりにでも…」

彼女が電話に手をかけたその時…ハンターが接近していた。

律「平梅城内に2つあるのか…大変だな…!？」  
ハンター「…!」

どうやら気づかれたようだ。

律「ちつ…!」

一旦平梅城から出ることにした律。

平梅城の公園には木々があり、春になると満開の桜が見られること  
でも有名な場所である。

その木々を上手く利用しつつ逃げていく…。

ハンター「…?」

どうやら上手く撒いたようだ…。

律「ああ…ハンターきついな…とりあえず違う所から平梅城内に侵入しないとな…」

どうやらミッションに参加することにしたようだ。

漣が確保されたからのだろう。

彼女は漣が犠牲になった分、自分がんばらないと…という決心を

強く持っていた。

律「あれは…憂ちゃん!？」

平梅城の近くにある『うな屋平梅城店』。

この店はうなぎ専門店でこの地域では有名な場所のようだ。

その近くに身を潜めていたのは彼女の友人である平沢唯の妹である平沢憂。

本当にグッドタイミングである。

憂「律さんじゃないですか。偶然ですね。」

律「さっきハンターがいた。平梅城内にいる。」

憂「本当ですか!？ありがとうございます。」

律「私が平梅城内に行ったのはミSSIONのためなんだ…。」

そう言うとき律はこれまでの経緯を話す。

自分が遅かったせいで澪は捕まってしまったということ。

そのために平梅城に行ったらハンターボックスが2つあるということとを発見したということ。

憂「わかりました、近くなので一緒に行きましょう。」

律「ありがとう、これで放出されるハンターの数も減るはず…!」

憂「慎重に行きましょう。ハンターはまだ平梅城内から出て行っていないはずです。」

平梅城歴史博物館前にいるのは姫路瑞希。

先ほど律がハンターに追われているのを見て余計に怖くなっている状況である。

瑞希「ミッション行きたいけど…ハンター多すぎるよ…」

怯えている彼女に近づく人物  
その人物とは…

明久「あ！姫路さん！」

瑞希「明久君！」

平梅城にやっと着いた明久、美波ペアであった。  
美波はハンターを阻止しているのだと瑞希に言った。

瑞希「とりあえず向こうにハンターがいます。探すのならこっちの方がいいかもしれません。」

瑞希はどうやらミッションへ向かう勇氣はない模様。  
それでもなんとか助けになりたいとハンターの情報を教えた。

美波「分かったわ！ありがとう瑞希！」

瑞希「はい、明久君もがんばってくださいね。」

明久「姫路さんが言うのだから仕方ないな…よし行くぞ！」

そして彼らは史跡公園へと向かった。

- - 残り93分

## ミッション2 Part3 〽ハンター放出を阻止せよ！ 美波・明久Side

今日で終わると思ったら思ったより長くなってしまいました…

今回はミッション2最終章です。

残り5分の間に当麻、唯ペアはどこまでハンター放出を阻止できたのか？

また残り3分の間に平梅城内のエリア内を探索する憂、律ペアと明久、美波ペアもどれだけ阻止できたのか？

ここが注目です。

また裏切り者が最近動いていないが…どういうことなのだろうか？

ミッション2 Part4「ハンター放出を阻止せよ！」 平梅城Side「前

遅れて申し訳ありません。

でもスローペース更新は前提だと思ってください（え

また感想ありがとうございます！

## ミッション2 Part4 〽ハンター放出を阻止せよ！ 平梅城Side〽

ゲーム終了残り95分となった。

現在ミッションに挑んでいるのは平沢唯・上条当麻ペア、吉井明久・島田美波ペア、そして田井中律・平沢憂ペアだ。

残り90分までにハンターボックスのレバーを下ろさなければそのボックスからハンターが放出されてしまう。  
はたしてどれだけ阻止できるのか！？

美琴がいた大型公民館の裏側には木下秀吉が隠れていた。  
その人に近づく唯と当麻ペア。

当麻「…つまりハンターボックスは見えてない？」  
秀吉「そうじゃ。助けにならなくてすまないのお」  
当麻「いや、ありがとう。これでこの辺を探す手間が省けたようだ」

しかし有力な情報は得られなかった。  
それでもあきらめずに探す二人。  
そんな彼らの元に…

ハンター「…」

ハンターが…

唯「当麻君！ハンターがいるよ！」  
当麻「マジか！一手に別れるぞ！」  
ハンター「…！」

どうやら気づかれたようだ。

しかしここは二手に別れる作戦に出たようだ。

ハンター「…」

ハンターが追ったのは当麻の方。

しかし気づいたのが早かった上に建物を上手く利用して逃げる当麻。

ハンター「…？」

結果、ハンターは彼を見失ってしまった。

当麻「はあ…結構唯と離れちゃったんじゃないかこれ…とりあえず連絡しないと」

ハンターに追われたことにより二人が離れ離れになってしまった。  
捕まらなかったただけマシだと思えばいいのだが…。

唯「もしもし？あ、当麻君無事だったんだ」

当麻「なんとかな。今こっちは平梅駅前郵便局にいる。そっちは？」

唯「川沿いの『ホテルビッグ』にいるよ。近くにあの小さくてかわいいう種島ぽぶら』って言う子供と一緒にいるよ」

電話の向こうから「ちっちゃくないよ！私は高校生ry」とか言う声が聞こえてきたがそれは置いておくことにした。

残り2分…とてもじゃないが当麻がそこまでたどり着いて、新たにハンターボックスを探すのは無理があるだろう。

しかも彼は追われたばかりで走っていきえるくらいの余裕はない。ということ当麻と唯はこの時点で探すのを諦めた。

それでも3つ阻止できたのだからお見事と言うべきだろう。

平梅城内でハンターを阻止しようとしているのは明久・美波ペアと律・憂ペアだ。

彼らに残された時間は3分。  
果たして間に合うのか!?

憂「ハンターいません! いきましょう!」

律「よっしゃあ!」

ハンターが去ったことを確認して平梅城内へと侵入した律と憂。  
ハンターボックスの場所は2つ分かっている。  
だから彼女らにとってはまさに時間との勝負であった。

律「レバーを引いて! おりゃあ!」

憂「これでOKですね。早く次のところに行きましょう!」

律が最初に見つけたハンターボックスをまず封印した。

これで残りのハンターボックスは計4個となった…

律「ハンターに見つかってもいい! 漣が命がけで教えてくれたんだからこれくらいいいしな!」

漣が犠牲になつてでも教えてくれたハンターボックスの場所。  
なんとしても彼女には阻止したい気持ちがあったのだ。  
二人は急いで門をくぐり、本丸へと急ぐ。

律「あれ…どこだ？」

憂「えーっと…あ、あれですね！」

憂が遠くにハンターボックスを発見。

この時ミッション終了まで残り20秒。

果たして間に合うのか！？

漣「律！阻止の方を頼むぞ！」

律「おお！任せておけ！」

牢獄の中にいる漣も応援している中、なんとかボックスまで到着した二人。

急いでレバーを降ろした瞬間…ミッションは終了した。

律「さてさて…どれくらい阻止してくれたかな…っと」

後は他の逃走者がどれだけ阻止してくれたかに賭けるしかなかった…。

美波「ここにあるのは間違いないよ！アキ、ちゃんと探しているよね？」

明久「失礼な！ちゃんと探しているよ！」

美波「ならいいんだけど」

島田美波と吉井明久が向かったのは本丸の東側にある史跡公園。

こっちにはハンターが居ないという助言を瑞希にもらったからだ。

美波「あれは…もしかして…」

ミッション終了まで残り1分を切ったところで美波が遠くに発見したものだ。

それは商店街で見たハンターボックスと同じものであった。

しかしそのハンターボックス…実は平梅城の周りの歩道にあるのだ。距離は大体300m、果たして間に合うのか!?

美波「アキ!全力で向かうわよ!」

明久「わかったよ、美波!」

一旦外に出て、市役所前を通る二人。

レバーはもう目の前だが時間もない。

とにかく全力で二人は走ることにした。

ミッション終了まで10…

9…

8…

7…

6…

先に到着したのは美波。

もうレバーに手をかけて明久を待っている。

5…

4  
…

遅れて明久を到着。  
すぐにレバーを持つ。

3  
…

美波「はあ…レバーを…降ろすわよ…」

2  
…

明久「せーのっ！」

ガチャン！

ミッション終了残り2秒でなんとかレバーを引いて阻止できた二人。  
しかしこの時点で逃走者が阻止できたのは8個のみ。  
これが意味するのはもちろん…

パンツ！！！！！！！！

秀吉「花火じゃ…ということは…」

平梅市に2つの花火が上がった。  
それと同時にハンターボックスからハンターが2体放出される。

ハンター「…！」

これでハンターの数は合計6体となってしまった…。

プルルルル！プルルルル！

まひる「メールだ。『ミッション1失敗、平沢唯・田井中律・平沢憂・吉井明久・島田美波・高須竜児・上条当麻・千石撫子の活躍によりハンター8体阻止…』」

律「しかしハンターが2体放出され、これでハンターは合計6体となる『花火上がったからな…まあ10体出るよりはマシか…』」  
憂「お姉ちゃんもやってたんだ！やっぱりすごいなあ…」

市長「どういう事だ！何故花火が2つしか上がらないのだ！」  
秘書「何者かによって…花火が上がらなくなっていました」

丁度のその頃、パレードを終えた市長はかなりご立腹な様子であった。

彼の就任を祝うはずの花火のほとんどが不発だったからだ。

市長「もういい、土屋秘書は下がれ。今は一人になりたいんだ」  
秘書「…わかりました」

それから言うものの市長に笑顔が戻ることはなかった。  
日に日に溜まっていくストレスが原因だろう。

そしてついにはこんなことまで言ってしまったのだ。

市長「市民はな、黙って市長の言うとおりに従ってればいいんだよ！」

こんなどうしようもない市長は市民の反感を買うことに。

しかも彼はその発言に対して全く反省していないそうだ。

それをきっかけに市民達はある行動に出る。

しかしこの行動が逃走者達に影響を与えることとなるのだ…。

ミッション2 Part4「ハンター放出を阻止せよ! 平梅城Side」(後

一難さつてまた一難。

ハンターも6体が増えて、さらに逃走者は逃げにくくなってしまった。

それでもまだ序盤なんです。

ミッション3 Part1〜賞金リセット&賞金単価ダウンを阻止せよ〜（前

5000アクセス突破&1000ユニーク突破！

応援ありがとうございます！

### ミッション3 Part1 賞金リセット&賞金単価ダウンを阻止せよ！

ブルルルル！ブルルルル！

秀吉「メールじゃ。『ミッション3…』」

ぽぷら「無責任な市長の態度に市民が怒ってしまい、市長の家へと市民が押し寄せている…」

美琴「残り75分になると市民が市長の家に侵入し、その影響で賞金リセット+1秒あたりの賞金単価が100円ずつとなる…」

唯「回避するには門にコードキーを入力して、侵入を防ぐしかない…賞金リセットだって！」

ミッション3…賞金リセット&賞金単価ダウンを阻止せよ！

現在たくさんの方が市長の家の前にいる。

彼らは残り75分になると市長の家の敷地内へと侵入する。

市民が敷地内へ侵入すると門にあるセンサーが反応して、賞金リセットとなる。

さらに1秒あたりの賞金単価が200円から100円へと減り、最高45万円しかもらえなくなってしまう。

回避するには門にコードキーを入力して、門を閉めなければいけない。

まひる「ということは自力で市長の家探さないといけないってこと…？」

そういうことだ。

今回メールでは市長の家について触れられてはいない。  
市長の家を探すには自力で探さないといけないのだ…。

ミッションに貢献した平沢憂。

田井中律とはすでに別れており、また『うな屋平梅城店』の近くにいる。

憂「基本はここにいるのがベストかな…ミッションh『ガヤガヤガヤ…』なんか向こうの方が騒がしい…行ってみよう…」

憂が自分の居た場所から南の方へと進んでいくとなにやら人だかりが…

憂「もしかしてここって…」

そう思った憂は近くに居た人に話しかける。

憂「あの…ここってもしかして市長の家でしょうか？」

市民A「ああ！お嬢ちゃんの言うとおりここがああの無責任な坂本市長の家さ。」

憂「そうですか…ご丁寧にありがとうございます。」

市民A「こちらこそ！」

偶然にも近くに市長の家を見つけた憂。

この憂、色々とラッキーなのかもしれない。

憂「すいません！ちょっと通ります！」

人ごみの中を掻き分けて通る憂。

やっと市長の家の門の前へとたどり着いた。

そしてそこには白いスーツに身を潜めた男性の姿が…

憂「もしかしてあなたが坂本市長さんですか？」

市長「いかにもな！」

立っていたのはまぎれもなく坂本市長であつた。

その周りには市民をなんとか敷地内に入れないようにしているボディーガードらしき人も何人がいた。

憂「お願いします！その門を閉めてください！」

市長「できたらこんな苦労はしないよ…実はこの門を閉めるにあたって必要なコードキーは知らないんだよ…」

憂「え…それはどういうことですか…」

動揺を隠せない憂。

折角来たのに門を閉めれないというのは一体どういうことなのだろうか…？

市長「実はこの門のコードキーを知っているのは俺の妻だけなんだ。」

憂「その妻はどこにいますか！？」

市長「平梅市の端に『ホテルカンパニー』というのがあるだろ？あそこに今行っているらしい。ただあいつに連絡しても携帯がつかないんだ…」

憂「そう…ですか」

市長「でも今からそちらに向かっている暇はない。見ての通りだ」

憂「なら私が変わりに行つてくるというのはどうでしょうか！？」

市長「それは本当か…是非ともお願いしたいところだ…！」

どうやら一筋縄ではいかないこのミッション。  
コードキーを市長本人は知らないというのだ。  
それを知るためには『ホテルカンパニー』にいる妻に直接聞きに  
いかないといけない。

憂「とりあえず連絡しないと…」

そんな彼女が電話をかけた相手とは…

唯「憂、どうしたの？」

もちろん姉である平沢唯であつた。

憂「偶然市長の家を見つけたの。場所は『平梅城前歯科医院』の近  
くにあつたよ、お姉ちゃん！」

唯「ありがと。やっぱり憂はなんでもできるね」

憂「えへへ／＼／＼」

そしてコードキーについての事を話した。

憂から『ホテルカンパニー』までは1km以上の距離がある。

どう考えても彼女が行くには難しい。

だから誰か変わりにホテルカンパニーに向かつて欲しい。

そしてそこで妻を発見できて、コードキーが分かったら私に連絡し  
て教えて欲しい…と。

唯「そっちの方が色々と手間が省けるもんね。他の人にも連絡して  
みるよ」

憂「分かった。何かあつたら連絡入れてね。」

唯「了解」

唯の電話が終わったら先ほどミッションに積極的に参加した田井中律にも電話をした。

律も『ホテルカンパニー』から遠いらしいがいけるところまで行ってみるそうだ。

憂「とりあえず…ここで電話を待つだけかな」

一旦彼女の仕事は終わったようだ…

瑞希「さつき明久君も行ってたみたいだし…私は行かなくても大丈夫そうだね…」

平梅城歴史博物館の前から一步も動いていない姫路瑞希。どうやら今回もミッションに参加しないようだ。

瑞希「でもここって見晴らしがいいからハンター発見しやすいけれどそれってハンターにとってもそうなんだよね…」

見晴らしがいいのは両方にとって同じこと。  
そんな瑞希に…

ハンター「…」

ハンターが…

瑞希「裏切り者も怖いし…あっ！」  
ハンター「…！」

見つかってしまった…

美波「あ…瑞希が…」

本丸にいる美波は彼女が追われているのを確認したようだ。  
どうやらミッションを終えて明久とはすでに分かれているようだ。

瑞希「はあ…はあ…」

ハンターを見つけたときにはハンターとの距離はかなりあった瑞希。  
しかし見晴らしがいい故にその距離も徐々に縮まっていき…

瑞希「あっ…」 ポンッ！

平梅市役所前の歩道へ向かうもむなしく確保されてしまった。

瑞希「ミッションも参加できず…何もできないまま終わっちゃった…」

【姫路瑞希 平梅市役所前にて確保 残り13名】

ブルルルル！ブルルルル！  
ぽぷら「メールだ…『姫路瑞希確保 残り13名』」  
明久「姫路さん…本当にどんどん捕まっていくな…」

-  
-  
-  
ゲーム終了まで残り82分

### ミッション3 Part1〜賞金リセット&賞金単価ダウンを阻止せよ〜（後

なにげに次回作をすでに考えています。

まずこれを完璧に仕上げてからそついうことを言えよ…って話ですよねw

### ミッション3 Part2 〓 阻止できたのか…それとも…？〓 (前書き)

Q: 走り高跳びの技を3つ答えなさい

この小説の作者、ゆうやんの答え

A: はさみ跳び、ベリーロール、ムササビジャンプ

(姫路瑞希のコメント) 実際に『ムササビジャンプ』というのがあったら面白そうですね…

保健のテストで実際に出された問題です。また答えも実際に書いたものです。

### ミッション3 Part2 〱 阻止できたのか…それとも…？〱

ゲーム終了まで残り82分。

ミッション3終了までは残り7分となっている。

現在ホテルカンパニーへと向かっているのは平沢唯から連絡をもらった上条当麻、田井中律の2名。

果たして無事にたどり着き、コードキーを手に入れることが出来るのだろうか！？

〱 牢獄トーク 〱

亜美「いつまで亜美ちゃんをここに閉じ込める気ですか？」

美乃梨「捕まったから仕方ないのだよ！」

現在牢獄の中にいるのは秋山澪、琴吹紬、中野梓、櫛枝美乃梨、川嶋亜美、姫路瑞希の6人。

中にはTVがあり、逃走者達の様子が見られる。

梓「誰がミッションに向かっているのでしょうか…？」

瑞希「恐らく明久君や美波ちゃんが行っているはずですよ！」

澪「後は律…かな」

紬「ミッションに行ってくれそうですからね…」

彼女は彼女達なりに盛り上がっているようだ。

しかし姫路瑞希…仲間がいないので若干会話に入りづらそうにも見えるが…？

まひる「あ…あれはっ…」

遠くにかやがやしているのを見た伊波まひる。

どうやら彼女は自力で市長の家を見つけたようだ。

憂「あ…あなたは…」

まひる「伊波まひるです、ここは市長の家ですよね？」

憂「はい、そうです」

そこで待っていた憂とも合流。

憂はこのミSSIONの事情について話した。

現在この事について知っているのは平沢唯、田井中律、平沢憂、上条当麻の4人のみ。

もちろんまひるは門を閉めるためにはコードキーが必要だということなど知るはずがない。

まひる「そうなんですか…なら私はこの辺にハンターが来るか見張ってます」

今までミSSIONに全く貢献していないまひる。

今回こそはやりたいという気持ちがあったのだろう。

危険な仕事に自らかってでた。

まひる「皆がんばってるんだもん…私だってなにかしないと…」

律「ホテルカンパニーまで遠いつて…」

律がいた平梅城から『ホテルカンパニー』までは1km以上は少なからずある。

しかし彼女は行こうというのだ。

たとえ誰かが行ったとしてももしその人が捕まってしまったら賞金リセットになってしまう。

行くことに意味がある、そう思っていたのだ。

律「漣だつて… やつたんだもん…」

その背景にはミッシヨンのために犠牲になった親友、秋山漣の姿があった。

自分が早く行かなかったせいで漣は捕まってしまった…

だから今回は誰も犠牲にしたくない… そう思っていたに違いない。

律「くそ… せめて時間に間に合つててくれれば…！」

律がいるのは平梅郵便局よりわずか北にある『オッドボーリングセンター』付近の交差点。

果たして間に合うのか!?

唯「… というわけでコードキーがわかったら妹の憂に連絡してね」  
当麻「ああ、わかった」

唯が真つ先に連絡していたのは上条当麻。

ホテルから近い、ミッシヨンに積極的に参加するという人だからと

いう意味できつと連絡したのだろう。

現に彼はこのミッションにも参加しており、いる場所は『ハイパーデパート』の近くにある『エドモンドホテル』の近くであった。

…とこれが連絡をもらった時の様子。

そんな上条当麻はもうすでにホテルに着いていた。

時間にもいつもよりかは余裕があり、落ち着いた様子で『ホテルカンプニー』の中へと入る。

しかし…

当麻「誰がその妻なんだよ…」

ロビーにはたくさんの人がいた。

女性に絞っても数人はいる。

妻の特徴を聞いていない当麻にとってこれは予想外。

当麻「仕方ない…一人一人聞いていきますか…」

電話で特徴を聞くのも手だった。

しかしそれだと余計に時間がかかってしまう。

というわけで当麻は一人一人聞いていくという手に出た。

当麻「すみません…もしかして市長の奥様でいらっしゃいますか？」

女性A「え…違いますけど…」

当麻「間違えました！申し訳ないです！」

女性A「面白い子ね。」

当麻「はあ…」

これが続くこと数分…結局見つけることができなかった。

ロビーにいらつたということなのでフロントの人にも聞いてみても違つたといわれてしまう始末。

ただフロントの人が貴重な情報を当麻に教えてくれていた。

フロントの女性「坂本さんは現在あちらのレストランで食事をしてゐます。もうそろそろ出てくる…あ、あれです！」

フロントの女性が指を指す方向には確かに女性はいた。

長い黒髪が特徴なその女性は回りの男性を魅了するほど美しい。時間は刻々と迫つてゐるためすぐに近づく当麻。

当麻「もしかして坂本市長の奥様でいらつしゃいますか？」

??「ええ…そうですか…」

そして当麻は彼女に事情を伝える。

現在坂本市長の家は大変な状況になつてゐること。

門を閉めればなんとかなるが、彼はコードキーを知らないということ。

妻に連絡してみるものの何故かつながらないということ。

当麻が真剣に話すその表情を見た彼女は彼にコードキーを教えることにした。

??「1993…携帯忘れたから雄二に連絡できない…変わりにお願い…」

当麻「おお！ありがとくな！」

??「ええ…」

やつとコードキーを教へてもらつた当麻。  
その当麻の元へと現れたのは…

律「はあ…あ…もうOKみたいですか？」

当麻「今から連絡する、時間がないから手短に済ますつもりだ」

この時残り時間はすでに76分を切っていた。

思ったよりホテルカンパニーで時間を潰してしまったからだ。

ブルルルル！ブルルルル！

憂「あ…電話だ…もしもし？」

当麻「コードキーは1993です！自己紹介などは後でしますので早くコードキーの方を済ませて置いてください！」

憂「わかりました！」

急いで門の前へと向かう憂。

そして彼から教えてもらった番号である1993を入力する。  
すると…

『番号を認証しました。門を閉めます』

ギギギギギギギギ…！

門が閉まっていった…。

- - - MISSION CLEAR - - -

ブルルルル！ブルルルル！

竜児「『ミッション3は平沢憂、上条当麻の活躍により成功…』」

撫子「賞金リセット&賞金単価ダウンは阻止された…』」

唯「当麻君やつぱりすごいね」

憂「あ…ありがとうございます！」

当麻「唯に頼まれたからな…」

憂「お姉ちゃん…」

唯に頼まれたというその男性が気になる憂。

しかし助かったのは事実…きつとお姉ちゃんも彼を頼りにしていたに違いないだろう…。

まひる「なんとかミッションクリアですね」

憂「そうですね…賞金リセットになんとかならなくてよかったです」

安心する2人に忍び寄るある人物…

その人物が2人を捕らえた…

??「平沢憂、伊波まひるを『平梅城前歯科医院』の前にいます！」

久しぶりの登場である裏切り者であった…

ハンター「…！」

裏切り者の通報によりハンターが動きを止め、そして一斉にその場所へと急ぐ。

まひる「じゃあ私はこれで…」

憂「はい、そちらもがんばってくださいね」

もちろん通報されたことに二人は気づいていない…

まひる「あ！ハンターです！」  
ハンター「…！」

まひるが向かった先からハンターを確認。  
そしてそのハンターに…気づかれてしまった…  
目の前の憂にもその情報を伝える。

まひる「ハンター殴りそう…だけど我慢しなきゃ…」  
憂「ここに来てハンター…」

最悪な事は市長の家の前は一本道と言う事。  
ハンターが来たのは南からであり、北へと逃げるしかない二人。  
そしてハンターが目をつけたのは…

まひる「いやあ…！」

伊波まひるであつた…  
一本道なので逃げる場所もあるはずなく…

まひる「あつ…」 ポンツ！

捕まってしまった…。

まひる「殴りたい…でも…我慢できた！」

捕まる以前にそちらのことばかり考えていたまひる。  
ハンターが方を触ったがなんとか殴るのを我慢できた模様。

【伊波まひる 裏切り者の通報により平梅城西にて確保 残り12  
名】

一方まひると共に逃げていた憂はというと…

憂「はあ…はあ…」

平梅城内に到着していた。

体力はすでに限界で、身を潜める事しか出来なかった。

ハンター「…？」

しかしそれが幸いしたのかハンターは彼女を見失ってしまった。

プルルルル！プルルルル！

律「『裏切り者の通報により伊波まひる確保 残り12名』」

憂「まひるちゃん…ごめんなさい…」

皆が忘れたことに通報をした裏切り者…果たしてそれは一体誰なのだろうか…？

次回、その正体が明らかになるだろう…。

そして…

市民A「おい！逃げるんじゃないぞ、坂本！」

門を閉めてなんとか難を逃れたが市民の怒りは収まるはずもない。  
そしてその影響で逃走者達に至上最大の難易度を誇るミッションが  
起こる事になってしまう…。

### ミッション3 Part2 〓 阻止できたのか…それとも…？〓 (後書き)

次回の作品には今話題のあのアニメやらネットで話題のあのゲームからが出る予定です。

しかし次回の舞台…どこにすればええんや…

## 裏切り者の正体（前書き）

ついに裏切り者発覚。  
さて、誰でしょう？

## 裏切り者の正体

現在の逃走者は12名。

その中に善人という皮をかぶった裏切り者がいるのだ。  
果たしてそれは誰なのだろうか…？

憂「まひるちゃん…ごめん…」

伊波まひると一緒に通報され、平梅城内へ逃げてきた平沢憂ではな  
く…

当麻「裏切り者による通報か…」  
律「一体誰が…」

ミッションへ向かい、平梅城とは反対方向にあるホテルカンパニー  
にいる上条当麻と田井中律でもなく…

唯「憂…」  
ぽぶら「…」

上条当麻と分かれてから共に行動しており、一回も怪しい行動をしなかった平沢唯、種島ぽぷらでもなく…

美波「裏切り者…一体誰よ…！」

裏切り者をとことん嫌い、分かったら殴ってやりたい気持ちでいっぱいぽの島田美波でもなく…

撫子「…」

大河「…」

ミッションがあってもホテル水道橋前、とハイパーデパート前広場と自分が決めた拠点から動いていない千石撫子、逢坂大河でもなく…

竜児「…」

平梅城とは反対の平梅駅前に身を潜めてた高須竜児でもなく…

秀吉「久しぶりに動き出したのかのお」

エリア拡大ミッションの際に他人に任せて、自分は大型公民館北付近に居た木下秀吉ではなく…

美琴「危ないわね…やっぱり行かなくて良かったのかしら…」

エリアを自由に歩いていたが、憂とまひるが通報された時には平梅郵便局前にいた御坂美琴ではない。

では裏切り者は誰だというのか？  
それは今から遡る事約40分前…

明久「裏切り者募集！？1回通報することに10万円！？だけど…  
皆を裏切る事はしたくない！」

そして数秒後…

明久「吉井明久です。『裏切り者』に立候補します。」

自身の言葉とは裏腹に立候補したのであった…。

プルルルル！プルルルル！

明久「『裏切り者は現在逃走している18人の中の一人だ。気をつけて行動したほうがいい。』だって…やっぱり止めたほうが良かったのかな…？」

しかしここから彼の通報劇が始まるのであった…。

明久「川嶋亜美、平梅城西郵便局の前にいます。」

明久が最初に通報したのは川嶋亜美。

通報してすぐにその場を放れており、自身が犯人ではないというのを証明したかったのかかなり遠い平梅郵便局前まで来ていた。

また名前は逃走中前の顔合わせをした際に覚えていたのであった。

明久「『川嶋亜美 裏切り者の通報によって平梅城西郵便局付近にて確保 残り17名 これであなたは10万円を獲得した。』…お金つてすばらしい！」

しかしその後、事件が発生。

なんとクラスメイトの島田美波が電話をかけてきたのだ。

お前が裏切り者だろ…という電話だ。

明久「なんとか美波にばれなかったけど…危なかった…」

なんとか一つの壁を乗り越えたという感じだろうか？

続いて2人目に通報したのはミSSIONに大変貢献した櫛枝美乃梨。

明久「あれは…拡大ミSSIONに行く人かな…？」

遠くで美乃梨を見つけた明久は急いで彼女を追った。

ただ明久は本当にバカであった。

通報するのはいいのだがエリア拡大ミSSIONは「そのエリアにいる人物全員」が強制失格になるというルール。

残り時間が少ないというのにわざわざそのエリアに入った明久は本当にバカであろう。

実乃梨「おりゃあ！」 ポチッ！

でも幸運な事に美乃梨はギリギリ間に合っていた。

なんとかボタンを押す事に成功した美乃梨が休んでいる際に明久は遠くで…

明久「櫛枝実乃梨、平梅駅前記念公園にいます！」

自分の恩人を通報した。

もし彼女がボタンを押さなかったら自分も失格となっていたのに…

明久は裏切り者に夢中でそのルールを完全に忘れていたのだ。

そして休む暇も与えられずに美乃梨は捕まってしまった。

その頃裏切り者である明久はというと…

明久「『これでああなたは20万円を獲得した。』…もう自首でもいいかも…」

全く感謝もせずに溜まっていく金にただただ喜んでいた。

そしてミッション2が始まった。

彼はミッションへ向かう人物を通報しようと企んでいたが…

美波「アキ！一緒にミッション行くわよ！」

またしても美波からの電話が来たのだった。

断りたくても断れない状況…仕方なく引き受けたのであった。  
ただミッションをやる事によって自分が裏切り者だと疑いをかける人物が少しでも減ってくればとこのミッションはやる事にしたのだ。

それにハンターが増える事は彼にとっても危険な事だったわけだ…

明久「あゝ…なんとか間に合った…」

ミッション2においては大変貢献した明久。

市役所前のハンター放出を阻止した後はその場に座り込んでしまうほどであった…

美波「お疲れアキ。さっきは裏切り者だって疑ってごめんね」

美波もどうやら彼の事は見直したようであった。

明久「（まずいな…本当は裏切り者なんだけどな…）」

ただ美波の最初の予想通り彼は実際に裏切り者であったのだ。

しかしそんな事を言われて複雑な気持ちになる明久…

美波「とりあえず私はこの付近にいる。もうアキは自分のところに帰っていいよ」

そう言うと美波はふらつとどこかへ行ってしまったのであった…

明久「通報したいけど…さすがに姫路さんや美波は通報できないよなあ…」

二人のいる場所はすでに分かっていた。

しかしそれでも通報しなかったのは彼なりの優しさだったのだろう。

ミッション3は賞金リセット&賞金単価ダウンという全員にとってモタダではすまないミッション。  
しかし明久は…

明久「すでに20万持っているし別にリセットなくても自首すればいい話だな！」

今回のミッションには非協力的であった。

平梅城から離れ、『安井寺』の前に基本はいた明久。

ところがその寺のすぐ北には『平梅城前歯科医院』があった。

そう…その近くには坂本市長の家があり、憂とまひるがいたのであった。

明久「ミッション成功したらすぐに通報するか…」

最悪な男であった…。

そしてゲーム残り時間75分ちょっとのところで門は無事閉められ、ミッシェンクリア。

その内容のメールを確認したらすぐに二人を通報したのだ。

明久「捕まれ…っ！願わくば2人…！」

しかしメールによると確保できたのはまひるのみ。

もう一人は逃げれたようであった。

明久「まあこれで30万円！どんどん貯めて新しいゲームとか買うぞ！」

そして今に至るのであった…

…ゲーム終了まで残り74分

## 裏切り者の正体（後書き）

裏切り者は吉井明久。

数少ない男子だというのに…

次回はミッション4。

恐らく史上最大の難易度を誇ります…

## ミッション4 Part1 史上最大の難易度を誇るミッションとは!?? (前)

ドラマパートは色々と無理があります。

すいません…一番難しいのがドラマパートなんです。

## ミッション4 Part1 史上最大の難易度を誇るミッションとは！？

ギギギギギギギギ…！

市長「なんとか難を逃れたな…」

逃走者達のお陰でなんとか門を閉める事ができた坂本市長。  
しかし逃げてばかりでは市民を怒らせるばかりであった。

市民A「坂本市長…あいつは最悪な市長だ…！」

市民B「そうだ！あいつは平梅市の市長になるべきではない人なんだ！」

この出来事があつてついに市全体が団結した。

そして坂本市長が門を閉めた二日後…彼らはある事をする事にしたのだ。

まさかこれが逃走者達に史上最大の難易度を誇るミッションを招くとはこの時誰もが思わなかったのだ…！

プルルルル！プルルルル！

憂「メール…『ミッション4…』」

明久「今から20分後に平梅市のいたところで市長へのデモ行進が行われる…」

美琴「この行進を鎮圧するためにデモ行進スタートと同時にパトカー125台が出動する…」

当麻「そのパトカー1台ごとにハンター4体が乗っており、エリア内に放出される。』まじかよ…」

唯「『回避するにはコンパデパート付近にある平梅電鉄バスターミナルに留まっている専用バスに乗る必要がある…』」

律「ただしこれに乗るためには平梅駅前のワンダーランドというゲームセンターにてその専用バスのチケットを貰わなければいけない…」

撫子「専用バスのチケットを手に入れるにはワンダーランドの入口付近にある機械に…」

ぽぷら「最低メダル100枚を乗せたメダルケースを置かないと出てこない。』メー長い…」

秀吉「『メダルは平梅城の本丸、史跡公園、平梅城公園西側に設置されている箱からカードを手に入れ…』」

大河「そのカードをワンダーランド入口付近の機械にかざすと20枚手に入るが、100枚集めるにはワンダーランドで稼ぐしかない。』厳しいよね…」

美波「『その機械はメダルが0枚になったらもう一度使う事ができるが、前回使用時から3分間は使えなくなる。』メダルがなくなってもすぐに補充はできないってことね…!」

竜児「『またこのミッション中の自首は禁止とする。』…逃げられもしないってことか…」

ミッション4…安全地帯へ移動せよ!

ゲーム終了まで50分になると平梅市では市民達が市長へのデモ行進を行う。

そのデモ行進を鎮圧するためにデモ行進がスタートされると同時にパトカー25台が出動する。

パトカー1台ごとに警察官の他にハンター4体が乗っており、合計100体がエリア内に放出される。これを止める術はない。

回避するにはコンパデパート付近にある平梅電鉄バスターミナルに留まっている専用バスに乗る必要があるがその専用バスのチケットを手に入れなければならない。

このチケットを手に入れるにはワンダーランドの入口付近にある機械に最低メダル100枚を乗せたメダルケースを置かないと出てこない。

平梅城の本丸、史跡公園、平梅城公園西側に設置されている箱からカードを手に入れ、そのカードをワンダーランド入口付近の機械にかざすと20枚手に入るが、100枚集めるには自力でそのワンダーランドで稼ぐしかない。

その機械はメダルが0枚になったらもう一度使う事ができるが、前回使用時から3分間は使えなくなっているためすぐに補充するのは困難である。

また平梅城内に設置されている3つの箱にはそれぞれ4つのカードが入っており、早い者勝ちとなっている。

このミッション中は公衆電話で自首申告をしても自首成立しないので必ずミッションに参加する必要がある。

御坂「メール長いし…ミッションは難しいし…どうなってるのよ…」

恐らく史上最大の難易度を誇るミッションと言っているだろう。

メール発信時はゲーム終了残り73分となり、逃走者達は23分の間にバスに乗り込まないといけないのだ…。

憂「平梅城…丁度よかった…」

まずこのミッションにいて一番初めにやる事は平梅城内に設置されているカードを入手する事。

すでに平梅城にいた憂はラッキーであった。

憂「あ…あれは…」

本丸にいる平沢憂が遠くに見かけたのは…

美波「箱どこにあるのよ…!?!」

島田美波であった…。

美波「あなたもカード探しているのね？」

憂「ええ…そうです」

美波「なら一緒に探しましょう、」

牢獄からの応援も受けながら一緒に探す二人。  
そして…

美波「あつたわ！あそこよ！」

美波が黒い怪しげな箱を発見。

中にはカードが4枚入っている。

美波「はい、これあなたの」

憂「ありがとうございます」

美波「じゃあ一緒に行きましょう。二人で行ったほうが心強い気がする！」

憂「そのほうが助かります」

彼女達が向かうのはワンダーランドというゲームセンター。

平梅駅前にあるためかなりの距離があるが、カードを入手できたことによってわずかな余裕が出来ただろう。

律「折角ミッションに行つたのに…」

当麻「不幸だ…」

対照的に田井中律と上条当麻は本当に不幸であつた。

ミッションのために向かつたホテルカンパニーは逃走エリアの最南端。

平梅城は最北端にあり、1 km以上の距離は少なからずある。

律「23分あるけどこれじゃあ平梅城行くまでに疲れるよ…」

当麻「不幸だ…」

実はほとんどの逃走者が平梅駅周辺やら逃走エリアの中央にいるためにカードを入手　ワンダーランドへ向かうという流れはもはや往復に近い。

それでも失格になりたくない逃走者達は平梅城へと向かうのであつた…。

明久「折角通報したいのに…こんなミッション出されたらそんな暇

もなくなっちゃうじゃないか…」

平梅城の近くにいた吉井明久。

裏切り者という立場上、通報したいのはやまやまだがこのミッションを見る限りそんな余裕はなさそうなのだ。

明久「とりあえずカード入手…ゲームセンターに行かないとな…」

平梅城公園西側に箱を発見して、その中からカードを手に入れることが出来た。

これで残っているカードは本丸に2つ、平梅城公園西側に3つ、史跡公園に4つとなった。

秀吉「あまり進まんが…行かないといけないみたいのお」

ミッションには消極的で一切参加していない木下秀吉。

今回は自首もできず、やらなければハンター100体に追われるという絶望的なミッション。

当然秀吉も行くようだ…

秀吉「ハンター多いし行くのはやなんじゃが…」

公民館付近にいる秀吉。

その近くに…

ハンター「…」

ハンターが…

秀吉「慎重に…慎重に…！！！」

ハンター「…！」

見つかった…

秀吉「…」

建物を利用し、上手くハンターを撒こうとする秀吉。  
しかし…

秀吉「…！」 ポンッ！

ハンターの方が速かったのだ…。

秀吉「何にもしてない…何にもしてないのじゃ…」

【木下秀吉 公民館付近にて確保 残り11名】

プルルルル！プルルルル！

明久「メール…秀吉まで確保された…！」

美波「そういえば秀吉見ないけど公民館の方にいたのね…」

現在カードをゲットしているのは平沢憂、吉井明久、島田美波の3人のみ。

果たして何人バスに乗り込む事ができるのか!?

- - -ゲーム終了まで67分

## ミッション4 Part1 史上最大の難易度を誇るミッションとは！? (後

実際にこのミッションを本家でやったら全滅しそうな感じですよね。  
まずミッション内容が長すぎるのが…いけないですよね。

## ミッション4 Part2}まずはカード入手(前書き)

アクセス10000突破！

日ごろの皆様の応援があつてこそです！

## ミッション4 Part2 まずはカード入手

至上最大の難易度を誇るミッション4に与えられたのは23分。  
その間に以下の事をしなくてはならない。

？平梅城にてカードを入手

←

？ゲームセンター『ワンダーランド』で？で入手したカードを使って  
コイン20枚入手

←

？『ワンダーランド』にて？で入手したコインを使って100枚集  
め、専用バスのチケットを入手

←

？『コンパデパート』の隣にある『平梅電鉄バスターミナル』に停  
まっているバスに？で入手したチケットを使い、乗車

現在？をクリアしているのは11名の逃走者の中で平沢憂、吉井明  
久、島田美波の3人のみ。

果たして無事間に合うのだろうか！？

美琴「あ…あつたわ！」

逃走者の中ではメールをもらった時点で5番目に平梅城に近かった  
美琴。

本丸へ向かうとその箱は発見できた。

美琴「残り1つ…まあ他の人を気にしている場合ではないよね…」

門をくぐり本丸から出ようとすると、違う方から本丸へと侵入する者が…

その正体は…

ぽぶら「恐らくここにあると思うんだけどな」

唯「そうだね」

一緒に行動していた平沢唯、種島ぽぶらの2人であった。

ぽぶら「あ！唯ちゃんあそこにあつたよ！」

唯「本当だ」

怪しげな黒い箱をすぐに発見した二人。

しかしその中には…

ぽぶら「一つ…しかない…」

カードは一つしかなかった。

すでに憂、美波、美琴の3人がここから取っているから当たり前である。

ゲットできたと思った二人の間には沈黙が訪れる。  
そしてこの状況で口を開いたのは唯の方であった。

唯「ぽぶらちゃん、このカード持って先にゲームセンター行つてぽぶら「そんな…唯ちゃんに悪いよ…」」

唯「時間ないし…私違つところ探しにいくよ！じゃあまたね！」

唯は残っていたカードをぽぷらにあげることにしたのだ。  
そして自分はカードを探しに違うところへと行ってしまった。  
その場に残されたのはぽぷらとカードのみ…

ぽぷら「唯ちゃんが折角くれたもんね…」

唯に感謝しつつ、箱からカードを取り出すとワンダーランドへと向かっていった…

史跡公園にて箱を探しているのは逢坂大河…

大河「あつた！」

どうやら見つけたようだ。  
しかしその近くには…

ハンター「…」

ハンターが…

大河「…よしっ！」

ハンターが去ったのを見て急いで箱の元へと向かう大河。

大河「じゃあ一枚もらって…っ」と

カードを手に入れ、ハンターに気をつけつつゲームセンターへと向かっていった…

美波「やつと着いたわ…」

憂「ここが『ワンダーランド』ね…」

ゲームセンター『ワンダーランド』に着いた島田美波と平沢憂の2人。

憂「じゃあさっそく…」

ワンダーランドの入口付近に置いてある機械に持ってきたカードをかざす。

すると20枚のコインを乗せた青いコインケースが出てきた。

憂「お先に失礼します…」

美波「うん！がんばってね！」

憂が先にコインケースを持ってワンダーランド店内へと入る。

憂「20枚を100枚…難しそうだけどがんばるか…！」

こうしてローリスクハイリターンのゲームを探しに行くのであった…

唯「箱見つけた」

平梅城公園西側で箱を見つけた平沢唯。  
中にはまだ3つ残っている。

唯「最初からここに来ればよかった…」

なんにしてもカードを見つけたのはいい事。  
急いでばぶらを追う唯であった…。

明久「ここか…」

3番目にカードをゲットした吉井明久も到着。  
コインケースを入手するや否や店内へと入る。

明久「うげっ…ハンターいるし…」

ゲームセンターとは言えでも、現在は逃走エリアの一部となっ  
ているのだからハンターは当然入ってくるのだ。

しかもゲームセンターは回りのゲームの音の影響でハンターの気配  
を感じる事ができないという難点がある。

その分ゲームの機械が多いため逃げやすくなるという利点もあるの  
だが、コインを100枚集めるにあたってその利点はほとんど必要

ないだろう。

明久「気をつけていかないと…」

ぽぶら「唯ちゃん大丈夫だよね…？カード無事ゲットできたよね…？」

唯におかげで先に『ワンダーランド』へと向かう事ができた種島ぽぶら。

しかし彼女の背後には…

ハンター「…」

ハンターが…

ぽぶら「とりあえずゲームセンターに行かないと…！…！」  
ハンター「…！」

見つかった…

ぽぶら「ハンターに見つかったよ…まずいよ…」

一気に交差点を渡るぽぶら。

そしてハンターも渡ろうとしたその時…

ハンター「…」

ハンターは止まってしまった。  
一体どうしたことだろうか？

ぽぶら「信号が…赤になっている…」

ぽぶらが渡った直後に信号は青が点滅…やがて赤になったのであった。

交通機関に従うのがルールなのでハンターも赤信号で足止めをくらっているのだ。

ぽぶら「なんにしてもラッキーだよ…早くハンターから離れないと…」

ラッキーな…女であった。

そして平梅城では…

撫子「あそこにカードあったよ。一つしかないけど…」  
竜児「おう！ありがとう！」

平梅城公園西側でカードを入手できた千石撫子と高須竜児と…

律「はあ…カードを手に入れたからちよつと休憩しよう…これだとハンター来てもすぐ捕まっちゃうよ…」  
当麻「だな…」

全速力で史跡公園へと向かい、なんとかカードを入手した田井中律と上条当麻がいた。

律と当麻は非常に急いで来たためにかなり疲れている模様。ちよつと休憩してから行くようだ…。

現在の状況はこんな感じだ。

平梅城内

田井中律、高須竜児、上条当麻

ワンダーランドへ向かっている人物

平沢唯、逢坂大河、御坂美琴、種島ぱぷら、千石撫子

ワンダーランド内

平沢憂、島田美波、吉井明久

ゲーム終了残り63分、ミッション4終了まで後13分だが平梅城内にいる人物は特に間に合うのだろうか！？

## ミッション4 Part2}まずはカード入手(後書き)

残り13分でゲームセンターへと向かい、コイン1000枚集めるのは至難の業。

コイン0枚になった瞬間終わりだと思えばいいかもしれません。

ミッション4 Part3ゲームセンターで20枚から100枚へ（前書き

??」  
…」

黒いフードをかぶった謎の人物。  
なにやら逃走者の様子を見ているようだ…

??」  
…」

彼は画面をタッチする。  
どうやら画面には…

GAME CENTER  
LEVEL DOWN

と書いてある。

これが一体何を意味するのだろうか…？

## ミッション4 Part3 ゲームセンターで20枚から100枚へ

ミッション4終了まで残り13分を切った…

現在状況はこんな感じである。

平梅城内

田井中律、高須竜児、上条当麻

ワンダーランドへ向かっている人物

平沢唯、逢坂大河、御坂美琴、種島ぱふら、千石撫子

ワンダーランド内

平沢憂、島田美波、吉井明久

果たして何人が成功するのであるのか!?

現在ワンダーランドにいる平沢憂。

彼女は競馬ゲームで必死に稼いでいる。

憂「えっと…これで2番の馬が勝てば…100枚だ」

最初は失敗続きであつた憂。

しかし憂はその失敗を生かし、それを成功へと導いている。

4枚まで減ったメダルも今では80枚となっている。

飲み込みが早いのが彼女のいいところ…こういうのには案外向いて

いるのかもしれない。

「最終コーナーを回ってトップは依然として1番人気の3番！おーっと！後ろから2番人気の2番が追い込んでくる！どうやらこのレスははこの2頭の争いだけのようだ！

残り200m！逃げる3番！追い込む2番！

そして2番が抜かしたあああああああああ！

そのままゴールイン！」

「1着2番、2着3番…以上の順位で確定しました！」

どうやら賭けにまたしても成功。

80枚中5枚をオッズが5・2倍の馬に賭けて返ってきたのは26枚。

結果、憂は101枚を手に入れることができたのであった。

憂「これで100枚…換金しないと…」

競馬ゲームは一番手っ取り早く稼ぐ方法だが消費の量が早い。それに慣れないと絶対に無理なため、初心者にはお勧めしない。しかし憂は手っ取り早く稼ぐためにこれを選んだようであった。

美波「憂ちゃん！もう100枚集めたの！？」

憂「うん…あの競馬ゲームで…」

美波「競馬ゲームか…なるほど…」

ちなみにコインは他人に分ける事はできないというルールがある。たとえ200枚集めても残りの100枚を渡してはいけないのだ。

憂「じゃあ美波ちゃんもがんばって！」

美波「うん、ありがとう！」

コインケースを持ち、ハンターにも気をつけながら入口へと向かっていく。

そしてなんとか入口へとたどり着くとメダルが出る機械とは別の機械にそのメダルケースを乗せる。

「ピピピピピ…メダルの合計は101枚…チケットを渡します…ピピピピ…」

機械からチケットが出てくる。  
それを憂はちゃんと確認する。

憂「専用チケットも持ったし…後はバスターミナルに移動するのみだね！」

チケットを最初に手に入れたのは平沢憂。  
果たして無事にバスターミナルまでたどり着けるのか！？

明久「なんか100枚溜まってしまった…」

吉井明久がやっていたのはプッシャーゲーム。  
プッシャーゲームとは指定された投入口からメダルを投入し、その投入したメダルで既にマシンフィールド上にあるメダルを押して、指定された範囲内にこぼれ落ちたメダルがプレイヤーの獲得メダルとなるゲームである。

どうやら普段はメダルゲームなどはやらない明久。

感覚で選んだ結果、これが一番だと思ったのだ。

明久「もつとやりたかったけど…さすがにお金の方が大事だしな…」

プッシュヤーゲームなんてメダルが少ない時に一番やってはいけないゲームだ。

でも何故か明久はこの時当たっていたのだ。

確かに彼が座っていた台はジャックポット目前の台ではあったのだが…

明久「とりあえず100枚交換しに行こう…」

こうして入口へと向かっていった…

憂「ここがバスターミナル…」

チケットを握りしめ、目的のバスターミナルへとたどり着いた平沢憂。

バスターミナルへはコンパデパート入口付近にある階段を使って降りて向かう事ができる。

憂「もしかしてあれかな…？」

小さなバスが一台そこに停まっている。  
乗車口付近には一人の男性が立っている。

憂「すいません…ここがこのチケットを使って乗れるバスですか？」

そう言つてその男性にチケットを手渡す憂。

するとその男性はにこやかな表情でこう言つた。

男性「その通りです。チケットを確認しましたのでもう乗ってもらつてもかまいません」

その言葉に安心したのか、憂はゆっくりと乗車していった。

憂「誰も居ない…まだゲーセンにいるみたいなんだね…」

どうやら一番乗りのようであつた。

平沢憂…MISSION CLEAR

そして平梅城でカードを入手した逃走者が続々と集まってきたのであつた…。

美琴「ここが『ワンダーランド』ね！」

4番目に来た御坂美琴を初め…

大河「100枚集めないと…」

5番目の逢坂大河…

ぽぶら「ハンターに追われたけど来ました！」

6番目の種島ぽぶら…

唯「ぽぶらちゃんはもう行ったのかな…？」

そして7番目にぽぶらちゃんの1分後に平沢唯が来たのであった。

これでまだゲームセンターについていないのは田井中律、高須竜児、上条当麻、千石撫子の4人。

果たして間に合うのだろうか！？

明久「ここがコンパデパートだな！」

時を同じくして吉井明久がすでにコンパデパートの前へと到着していた。

階段を下りて、バスターミナルへと向かう。

憂「あ…あれは…」

すでにバスの中で出発を待つ平沢憂。  
外を見ると誰かが来たのがわかる。

明久「これ！お願いします！」

男性「確認しました、ではご乗車ください」

明久「よし！」

吉井明久…MISSION CLEAR

明久「一番乗り…ではなさそうか…」  
憂「…」

大河「あと56枚…大変だな…」

逢坂大河がやっていたのはビンゴゲーム。  
初心者でも簡単に遊べる手軽なメダルゲームだ。

大河「とりあえず5枚賭けて…」と」

そんな大河の背後に…

ハンター「…」

ハンターが…

大河「5球でビンゴになればすぐ溜まるんだけどな…」

大河はゲームに集中しているためハンターに気づいていない。  
回りの音がハンターの気配を消しているのだろう。

ハンター「…！」

そして先にハンターが気づいてしまった…

大河「23が入ったわ…いいスタートね…」

ハンターが追ってきてても大河は未だに気づいていない。

大河「5入って…！」ポンツ！「え…」

そして大河が気づかぬ間にいつの間にかハンターが大河の肩に触れていた。

ゲームに集中するのもいいがこれは逃走中。  
なによりもハンターから逃れる事が第一なのだ…。

大河「え…終わり？」

終わりだ…。

【逢坂大河 ワンダーランド内のビンゴゲーム付近にて確保 残り  
10名】

ゲーム終了残り時間は58分。  
ミッション4終了までは8分を切った。  
現在の状況はこんな感じである。

ワンダーランドへ向かっている人物

田井中律、高須竜児、上条当麻

ワンダーランド内

平沢唯、島田美波、御坂美琴、種島ぽぷら、千石撫子

ミッション4成功者

平沢憂、吉井明久

未だにワンダーランドに着いていない人もいるが果たして間に合うのか……！？

## ミッション4 Part3}ゲームセンターで20枚から100枚へ}(後書き

感想ありがとうございます。

今年中にはあるところまで終えたいですね！。

紅白での水樹奈々さんに期待！(え

## ミッション4 Part4〜チケット入手してバスターミナルへ〜（前書き）

今回は短い気がします。

ミッション4までは今年中に終わらせたいですね〜

## ミッション4 Part4 チケット入手してバスターミナルへ

ゲーム終了残り時間まで58分、ミッション4終了まで8分となった。

現在の状況はこんな感じである。

ワンダーランドへ向かっている人物

田井中律、高須竜児、上条当麻

ワンダーランド内

平沢唯、島田美波、御坂美琴、種島ばぶら、千石撫子

ミッション4成功者

平沢憂、吉井明久

果たして何人が間に合うのか!?

竜児「あと大体7分半…間に合うのかこれ…?」

ミッション4終了まで約7分半。

高須竜児がワンダーランドへとたどり着いたのであった。

竜児「やってみるしかないよな…」

美波「やっと集まった！」

一度はメダルが0枚になった島田美波。

憂からの情報で競馬ゲームをやってみたが少しずつだったがメダルは溜まっていき、100枚以上となった。

美波「早く行かないとね…」

美波が入口へ向かうとそこには三人の集団が。

一人はチケット入手のための機械に、もう二人はメダル入手のための機械を使っている。

美琴「あら、あなたも100枚貯めたの？」

美波「一度0枚になりましたけどね…なんとか100枚まで…」

美波と同じく100枚をすでに貯めていたのは御坂美琴。

彼女はポーカールのゲームで稼いだ模様。

彼女がやっていたポーカールでは役ができるとコインがもらえるというシステム。

しかしそれだけで終わりではない。

役ができた瞬間にダブルアップゲームに挑戦できるのだ。

ダブルアップゲームではその時に稼いだコイン全部を使ってやるゲーム。

52枚のカードから成る山札の一番上を引いてそれが赤色か黒色のどっちかを当てるというシンプルなものである。

当たれば稼いだコインが2倍に、外すと全て没収という一発逆転が狙えるものである。

ダイヤ・ハート・クラブ

このゲームは何回でもできるため、15枚から一気に120枚というのも狙えるのだ。

それを上手に使うて100枚以上貯めたようだ。

当麻「それはそうとビリビリ、どうやって100枚貯めたんだ？」

美琴「そんなの自分で探さないよ」

当麻「時間がないんだよ！折角ミッションに貢献したというのに！」

美琴「こっちも忙しいのよ。島田さんだっけ？一緒に行きましょう！」

美波「え…ええ…」

二人が話している間に美波はすでにチケットを入手。

そして美琴は美波と一緒にバスターミナルへと行ってしまった…。

田井中律はすでに20枚をゲットして、ワンダーランドの中に入っていた。

結果、上条当麻がそこに一人ぽつんと取り残される形となったのだ。

当麻「ふ…不幸だあああああああああ！」

急いでゲーセンの中へと入っていった…。

美琴「この交差点長いわね…」

平梅駅前の交差点は待ち時間が長い。

やはり駅前ということだけあるからだろう。

乗用車の方を基本優先にしている。

美波「早くしなさいよ……」

そんな二人が待っている交差点の近くに……

ハンター「……」

ハンターが……

美琴「やつと青になったわ……ってあれハンターじゃん！」

ハンター「……！」

見つかってしまった……。

美波「二手に別れましょう。そっちの方が効率的よ！」

美琴「分かったわ！」

ハンターに追われながらも交差点を渡りきった二人。

美琴はすぐに左へと曲がり、美波は真っ直ぐに進んでいった。

ハンター「……」

ハンターが視界に捕らえたのは……

美波「こっちななの！？」

島田美波のほうであつた……。

美波「……………っ！」ポンッ！

【島田美波 コンパデパート付近にて確保 残り9名】

そして確保されてしまった…。

バスターミナルはすぐ目の前であったというのに…。

美波「悔しいわ…本当に悔しい…。」

プルルルル！プルルルル！

美琴「島田さん確保か…その分私がんばらないと！」

コンパデパートの前にはハンターがいるというのは分かっている。  
だからちよっと遠回りをしてコンパデパートに近づく事にしたのだ。

美琴「…大丈夫だね」

周りを確認しながらゆっくりと近づいていく。  
そしてコンパデパートに近づいたその時…

ハンター「…」

遠くにハンターを見つけた…。

美琴「…今だ！」

ハンターが後ろを向いた瞬間、急いで飛び出す御坂美琴。  
幸いハンターはこちらを向かず、ゆっくりと逆側へと歩いていった。

美琴「はあ…ここね！」

バスターミナルへと続く階段を見つけ、下へと降りていく。  
すると予想通りバスが停まっていた。

美琴「これ…チケットよ！」

男性「確認しました、ではご購入ください」

御坂美琴…MISSION CLEAR

美琴「あら、もう居たのね」

明久「まあカード早く入手できたからね！」

憂「…」

唯「んゝどうやってコイン１００枚なんて集めるのかなゝ」

すでに２０枚を消費してしまった平沢唯。

入口でコインの補充を行っていたところであった。

唯「そうだ、憂に連絡してみよう。」

携帯電話を取り出し憂に電話をかける。

するとすぐに憂は出てくれた。

唯「憂ゝ今どこにいるのゝ？」

憂「すでにバスの中にいるよ！お姉ちゃん！」

唯「さすが憂だね！」

憂「えへへ／＼／＼」

そして憂は競馬のゲームがお勧めだと唯に言った。

唯は感謝して憂との連絡を切った。

美琴「うれしそうだったけど何かあったの？」

憂「お姉ちゃんにほめられたから／＼／＼」

美琴「ああ…そう」

しかし憂だったから競馬ゲームで稼ぐ事が出来たのだ。

決して唯が同じように稼げるとは限らない。

果たして大丈夫なのだろうか？

ゲーム終了残り時間まで54分、ミッション4終了までついに4分となった。

現在の状況はこんな感じである。

ワンダーランド内

平沢唯：競馬ゲームで奮闘中、一度メダルを補充している

田井中律：競馬ゲームで奮闘中

高須竜児：麻雀ゲームで奮闘中

上条当麻：スロットで奮闘中

種島ぱふら：プッシャーゲームで奮闘中、一度メダルを補充している

千石撫子：子供向けゲームで奮闘中

ミッション4成功者

平沢憂、吉井明久、御坂美琴

果たして何人が間に合うのか!?

## ミッション4 Part4 チケット入手してバスターミナルへ (後書き)

残り4分で未だに成功者3人。

でも本家でもこの時間帯に続々と成功して来ますよね。

最高9名がミッション4成功者となる今回。

半分以上の10名がすでに確保となっています。

果たして…どうなるのか。

## ミッション4 Part5}バスに乗れたのは何人!?? (前書き)

なんとか今年中に投稿できた!

ここまで投稿するのがとりあえずの目標だった!

## ミッション4 Part5 バスに乗れたのは何人！？

ゲーム終了まで残り54分、ミッション4終了まで4分となっている。

現在の状況は以下の通りである。

### ワンダーランド内

平沢唯：競馬ゲームで奮闘中、一度メダルを補充している

田井中律：競馬ゲームで奮闘中

高須竜児：麻雀ゲームで奮闘中

上条当麻：スロットで奮闘中

種島ぽぷら：プッシャーゲームで奮闘中、一度メダルを補充している

千石撫子：子供向けゲームで奮闘中

### ミッション4 成功者

平沢憂、吉井明久、御坂美琴

果たして何人成功するのだろうか！？

現在ミッション4をクリアした3人はバスの中で待機している。もちろん参加者に電話をする事はできるが、ゲーセンでがんばっているのは彼らにも知っているのだからしないだろう。

美琴「それにしても後3分〜4分なのに3人しか成功者がいないのもおかしい話よね……」

憂「ミッション難しいですからね…でもこれから来るはずですよ。」  
明久「（そうでないと通報できないからな…）」

ミッションまで残り3分弱。  
まさかこれだけで終わってしまうのではないかと不安になってしま  
う3人。

現在ワンダーランドには6人の逃走者がチケット入手するために奮  
闘している。

果たして何人が滑り込めるのか!?

撫子「あつ…99枚…」

ローリスクローリターンの子供向けゲーム。  
そこでプレイしていたのは千石撫子。  
何故選んだというやはり一番操作が簡単だからだ。

どうやら彼女は運よく99枚をゲットできた模様。  
子供用ゲームは99枚が1回で入手できる最高金額となっている。  
それを当てたのだ。

撫子「これで100枚は入手できた〜やった〜！」

子供向けゲームで100枚入手するためにはこういう形で入手する  
しか方法がないのだ。  
それを当てたというのだから運がとってもいいのだろう。

撫子「早速チケット貰いに行こう」

重い100枚が入ったコインケースを両手で持ち、ゆっくりと入口のほうへと向かった…。

撫子「あゝ竜児お兄ちゃんだ」

竜児「お…おう！」

入口で機械を使ってチケット入手していたのは高須竜児。

彼は麻雀ゲームで100枚以上獲得したようだ。

どうやら3連勝後にできるボーナスゲームが助かったとか。

撫子「折角だから撫子と一緒に行く？二人なら心強いよ」

竜児「そうだな…」

撫子もチケットを入手して、竜児と共にバスターミナルへ向かう事にした。

ミッション終了まで2分半。

間に合うのか！？

律「よし！100枚ゲットだぜ！」

唯「えゝりっちゃんなんでそんな早く貯められるの？」

律「ゲーセンはよく行くからな（キリッ）」

先に競馬ゲームで100枚集める事が出来たのは田井中律。

平沢唯はまだ50枚弱しか集まっていない。

律「では、お先に失礼するぞ！」

唯「そんな～行かないでよりっちゃん～」

律「出会いがあるように…いつか別れというものもあるんですぜ…」

お嬢様」

唯「そ…そうだね！」

律「というわけで行ってくる！」

急がないとバスターミナルへと間に合わない状況。

果たして大丈夫なのか？

当麻「不幸な上条当麻さんでも100枚集める事が出来ましたよ…」

一人スロットで100枚集めた上条当麻。

しかし実際は100枚というよりは…

当麻「重い…」

コインケースには300枚以上のコインが入っている。

一度大当たりした結果がこれである。

また自分が稼いだコインは全て持っていくというのが一応ルールとなっている。

だったら大当たりの途中で止めればよかった話だがやはり大当たりしたからだろう。最後までやってしまったのだ。

当麻「ふ…不幸だ…」

コインケースを持って入口へと向かっていったのであった…。

竜児「ここがコンパデパートか！」

撫子「そうみたいだね…」

ハンターに追われることもなく無事にコンパデパートへと着いた二人。

案内板が近くにある階段を使って下へと降りていく。  
するとバスが停まっているのが発見できた。

竜児「これっ！お願いしますー！」

撫子「撫子も」

竜児と撫子がチケットを渡す。

男性「確認しました、ではご乗車ください」

高須竜児、千石撫子…MISSION CLEAR

美琴「これで5人…でももう1分切ったわよ…？」

憂「お姉ちゃん…」

すでにミッション4終了まで残り1分を切っている。  
もちろん逃走者全員それを理解している。

律「間に合うかな…？」

田井中律はチケットをすでに入手済み。  
現在交差点を渡りきったところである。

律「えーつとバスターミナルは…あれか…」

「平松電鉄バスターミナルはこちらです←」と書いてある階段を発見。

そして律はそこへと向かう。

律「あれかな…？」

どうやら律もバスを発見した様子。  
近くにいた男性にチケットを渡す。

男性「確認しました、ではご乗車ください」

律「よっしゃあ！」

田井中律：MISSION CLEAR

そしてこの時…ミッション終了まで30秒となっていた…

憂「律さん！お姉ちゃんは今どこに…？」

律「唯か？唯なら競馬ゲームで必死に稼いでたぞ？」

憂「大丈夫かな…」

ミッション4終了まで残り20秒。

この時点でチケットを入手しているのは上条当麻のみ。  
果たして間に合うのか!?

当麻「もうバス出発するんじゃないか…?」

現在交差点を渡っている最中。

コンパデパートは目の前だ。

そして…ミッション終了まで残り10秒…

10

9

8

当麻「バスターミナルはあの階段から行くのか!」

どうやら階段を見つけた当麻。  
後は時間との勝負だ。

7

6

5

男性「では、行きましょう。」  
運転手「ええ」

バスの扉が閉まった…

4

3

当麻「待ってください！乗ります！」

階段を下りながらバスへ叫ぶ当麻。  
しかしバスまでは距離がまだある。

2

1

美琴「あいつ…もう間に合わないわよ…」

すでに中に乗っている御坂美琴などの逃走者6名がも心配そうに見ている。

0

そしてミッション4は終了した…

当麻「待つて！バス止まってください！」

ようやく到着した当麻。

しかし時すでに遅し。

出発時刻をわずかに過ぎていたのだ…

当麻「ふ…不幸だあああああああ！」

当麻を置いてバスは出発していった…

市民A「市長反対!」

市民B「あいつは退職するべきだ!」

そして街のいたるところでパレードが始まった。

ワンダーランド店員「これからパレード始まるんだ。その間は出て行ってくれ」

ぽぶら「え…でも100枚貯めないと…」

ワンダーランド店員「いいから…!」

その影響はワンダーランド内にいる逃走者にも影響を与えていた。

ぽぶら「そんな…どうすれば…」

唯「ぽぶらちゃんも間に合わなかったのか」

ぽぶら「さすがに100枚は難しいですよ!」

パレードが始まるという事で店から追い出されてしまった二人。店員もパレードに参加するからだろう。

そしてその頃、エリアにパトカーが25台侵入していた。

彼らはパレードの前に停まり…

警察官A「今すぐパレードを止めるんだ!」

ハンター「…!」

ハンターを放出すると共にパレードを止めにかかっていったのであった…。

ぽぶら「あ！ハンターが出てきた！」  
唯「逃げないと！」

もはや脱出手段はない。

市内のいたるところからハンターが出てくる。

ぽぶら「ハンターに囲まれたよ……」

唯「もう終わりだね……」

ポンッ！

そして確保されてしまった……。

【種島ぽぶら 公民館前にて確保 残り8名】

【平沢唯 公民館前にて確保 残り7名】

一方後一步で乗れなかった上条当麻はというと……

当麻「っ……！」

ハンターに囲まれていた。

それも30体以上のハンターに。

彼がいる場所は平梅駅前。

しかし前から左からも右からもハンターが来ている。

当麻「不幸だあああああああああ！」

そして上条当麻はハンターの波へと消えていったのであった……。

【上条当麻 平梅駅前にて確保 残り6名】

警察官A「今すぐやめるのだ！」

市民A「うるさい！お前達に市民の苦しさが分かるというのか！？」

パレードはさらに白熱。

しかしそんな市民も警察の前では勝てるはずもなく…

市民B「これは…睡眠ガス…」

警察も睡眠ガスを使うなどしてなんとかパレードを収めたのであった…。

ミッション4 Part5}バスに乗れたのは何人!?? (後書き)

水樹奈々さん可愛かったよ!  
プリキュアのところがry

そしてPHANTOM MINDS良かったよ!  
弟にチャンネル変えられてすごい萎えたが…

敗者復活 Part1 対するは50体のハンター!?? (前書き)

久しぶりに書くことができました。  
やっぱり書いてて楽しいですね。

## 敗者復活 Part1 対するは50体のハンター！??

ミッション4が終了して、パレードもなんとか鎮圧した平梅市。ハンターが100体増えて106体になっていたのだが、警察の催眠ガスのせいでなんと56体もののハンターが被害にあってしまった。

現在平梅市には催眠ガスで眠らせている多数の市民とハンター56体がそこらじゅうに横たわっている。

ハンター「…」

警察はすでに去ったが、エリア内にはまだ50体のハンターがいる。そんなエリアに取り残された13名…

唯「ハンターたくさんいるよ」

梓「私達はどうすればいいんでしょうね…」

檻の中にいるためどうする事もできない人達…

プルルルル！プルルルル！

当麻「お、メールみたいだ。」

秀吉「早く読むのじゃ」

どうやら上条当麻だけにメールが送信されていた。当麻がその内容を読む。

当麻「『今から牢獄の人にもチャンスを与えよう。』 まじか！」

牢獄が歓喜の和に包まれる。

当麻「この牢獄の門が開いてから10分以内に平梅駅前のバス停留所に停まっているバスに乗れば敗者復活だ。しかし現在エリアには50体のハンターがいる。』…だそうだ。」

敗者復活戦…バスに乗り込め！

現在平梅駅前のバス停留所にはバスが停まっている。

今から10分までにそのバスに乗り込めば何人でも敗者復活となる。ただしエリアには50体のハンターが存在する。

そのハンターに捕まったらまた牢獄へ行く事となる。

もちろん時間までにたどり着けなかった逃走者も同様だ。

これで復活した人が逃げ切ったら他の逃走者同様144万もらう事ができる。

メールの最後には全員でカウントダウンをするようにと書いてあった当麻のメール。

そのカウントダウンがどうやら敗者復活戦始まりの合図となるようなのだ。

当麻「仕方ないな…カウントダウンを始めるか！」

他12名「もちろんっ！」

10！

唯「（また逃げたいっ…！）」

澪「（折角来たからね…）」

紬「（もつと楽しみたいわ…）」

梓「（あまり楽しめてないからせめて残り50分だけでも…）」

9！

8！

7！

大河「（負けたくない…！）」

美乃梨「（私の俊足見せてやるっ！）」

亜美「（裏切り者を突き止めてやる…！）」

6！

5！

4！

瑞希「（まあ檻の中よりは楽しそうですね…）」

美波「（もっと遊びたいもの！）」

秀吉「（ここでじっとしているのは嫌じゃのお…）」

3！

2！

1！

当麻「（144万あれば非常に助かる…！）」

まひる「（この日のために特訓してくれた小鳥遊君のためにも…！）」

ぽぷら「（絶対にげてやるもんね！）」

0！

ボタンという大きな音を立てながら門は綺麗に前へと倒れていった。

その瞬間13名の逃走者は逃げる事が可能となり、敗者復活戦が始まった。

美波「ってあれ？ハンターいないじゃない」

彼女達がいた牢獄があるのは平梅城の本丸。

この本丸にはこの敗者復活戦の間は実はハンターが来ない仕組みになっているのだ。

しかしここにずっといてはいつまでも敗者復活はできないので長居は無用である。

当麻「とりあえず早く行かないとな…」

正面の門から本丸を一番乗りで脱出したのは上条当麻。  
そんな上条当麻に…

ハンター「…！」

ハンターが次々と襲い掛かる…。

当麻「ちょっとタンマ！それはないって！」

追いかけるのはざっと3、4人。

いくら逃げ足が速い当麻でもさすがに大人数を撒く事は出来ずに…

当麻「不幸だあああああああ！」ポントッ！

捕まってしまった…。

【上条当麻 平梅城公園にて確保】

当麻にハンターが向かっている間に逃走を試みる他の逃走者。しかしハンターは平梅城内だけにいるわけではない。

唯「絀ちゃん！ハンターがあそこに！」

唯、澪、絀、梓の4人に迫る1体のハンター。

早く発見できたからいいものの、逃げている途中でもう1体のハンターが合流してしまった。

結果、今4人は2体のハンターに追われているという状況だ。

絀「ここは私が囷になるわ…！先へ行つてて…！」

もう体力の限界だったのだろうか。

琴吹絀がここで囷になると宣言した。

唯「ダメだよ！一緒に行こうよ！」

必死で止める平沢唯。

しかし絀はキリッとした顔で唯に叫んだ。

絀「一度でいいからやってみたかったの…こうやって仲間を守る事。」

そして紬はハンターを引きつけ、近くの曲がり角を曲がって行った…。

漣「唯、ここはムギに任せよう。」

梓「唯先輩。行きましよう。」

唯「…うんっ！」

こうして3人は平梅駅へと向かっていった…。

紬「いやっ…！ハンター早すぎる…！」

ハンターに2体に追われることとなった紬。  
元々体力が限界だった事もあり…

紬「…！」ポンッ！

捕まってしまった…。

紬「でも役目は果たした…！」

【琴吹 紬 ホテルアノコロピアン付近にて確保】

いくら106体から50体へと減ったとしてもありとあらゆる場所に潜んでいるハンター。

逃走者が休む場所などない…！

ぽぷら「伊波ちゃん！逃げて！」ポンツ！

伊波まひると行動していたが、ハンターに追われて結局捕まってしまった種島ぽぷら。

まひる「早く行かないと…！」

しかし別のハンターが彼女を…

ハンター「…！」

ロック オン！

まひる「ハンターっ…！」

彼女もどうやらハンターに気づいたようだ。  
しかし彼女がいるのは運悪く一本道。

まひる「はあ…あっ…」 ポンツ！

そしていとも簡単に捕まってしまったのであった…。

【種島ぽぷら うな屋平梅城店付近にて確保】

【伊波まひる 坂本市長家付近にて確保】

現在残っている逃走者は平沢唯、秋山澪、中野梓、逢坂大河、櫛枝実乃梨、川嶋亜美、姫路瑞希、島田美波、木下秀吉の9名のみ。果たして誰がバスにたどり着けるのだろうか！？

敗者復活 Part1 対するは50体のハンター!?? (後書き)

日曜日の逃走中楽しみ…!

個人的にはアツキーナにがんばってもらいたい。

彼女結構ミッションに積極的だったりするからね)

敗者復活 Part2 次々と捕まっていくな…！ (前書き)

明日の逃走中に向けてもういっちょ更新！

一番苦手なドラマパート…やっぱり難しいな…

## 敗者復活 Part2 次々と捕まっていく逃走者…！

すでに捕まってしまった逃走者13名を対象に行われる敗者復活戦。平梅駅前にあるバスに10分以内に乗り込めば何人でも復活可能となっている。

果たして何人が成功するのだろうか！？

亜美「ハンターいたわっ！」

実乃梨「おうよ！」

大河「一旦別れよう！」

逢坂大河、櫛枝実乃梨、川嶋亜美の3人に気づいたハンター。そのハンターが最初に捕らえたのは…

大河「げっ…」

大河であつた…。

さらに向かった先からも別のハンターが…

大河「あーこりやダメだ。」ポンッ！

逃走者に安息の場所などない…！

【逢坂大河 館山屋マンション付近にて確保】

美波「瑞希！大丈夫！？」

瑞希「先行っててください！ちょっと休憩します！」

姫路瑞希、島田美波、木下秀吉の3名は現在橋橋まで来ている。  
エリア中央に流れているこの川の地点はいわば中間地点。  
平梅駅まではあと半分のところである。

秀吉「ここで待っているのも危ないから先に行くしかないのお」

美波「そうね…瑞希！先に行ってるよ！」

瑞希「分かりました！」

二人が瑞希と離れていったその時、ハンターが二人の姿を…

ハンター「…！」

捕らえた…！

秀吉「ハンターじゃ！」

美波「本当ね…！」

二人もどうやらハンターに気づいた模様。

同時に行動すると両方捕まってしまうのではらばらになることに。

ハンター「…！」

ハンターが先に捕らえたのは…

美波「…」

島田美波だ…！

美波「…あゝ！」ポンツ！

しかしハンターの前では無力。  
結局捕まってしまった…。

美波「うわゝ復活したかったなゝ！」

【島田美波 岡田家具デパート付近にて確保】

そして彼女を捕まえたハンターは…

ハンター「…！」

もう一人を捕らえた。

その人物とは…

瑞希「…」

橘橋で休憩している姫路瑞希だ。

瑞希「きゃっ…ハンター…！」

休憩していたもののその時間は短い。  
そんな彼女がすぐに逃げれるもなく…

瑞希「うっ…」ポンッ！

あっさり捕まってしまった。

瑞希「悔しいです…」

【姫路瑞希 橘橋にて確保】

橘橋の西に架かっている中央橋。

そこを通っているのは平沢唯、秋山澪、中野梓の3人だ。

唯「ハンターなんか2体が増えたんですけど！」

澪「怖いよ怖いよ…（ガクガクブルブル）」

梓「本当に休む場所なんてないんですね…」

しかし彼女達は今ハンターに追われている最中であつた…。

唯「ムギちゃんの犠牲を無駄にはしないためにも逃げよ！」

澪「そんな事言つたって… っ… ああっ！」

なんとまさかのハプニング発生。  
ここで澪が転んでしまったのだ。

唯「澪ちゃん！後ろ！」

澪「いたた…え？」ポンツ！

転んでしまった間に捕まってしまったのだ。

なんとも不幸な終わり方である。

ハンター「…！」

しかし澪を捕まえたハンターはまだ終わっていない。  
近くにいる唯と梓の捕獲へとすぐさま移ったのだ。

唯「あずにゃん！逃げるよ！」

梓「はいっ！」

一旦別れる事にした二人。

ハンターが先に捕らえたのは…

唯「こっち来ちゃったか〜！」

唯の方であつた…！

唯「…あゝ」ポンツ！

唯の力走もむなしく、あっさり捕まってしまった。  
しかし別のほうに逃げた梓は…

梓「これで一人…先輩のためにも早く行かないと！」

無事であつた。

唯「まああずにゃんが復活してくればそれでいいかな」

仲間思いの…唯。

【平沢唯 公民館付近にて確保】

【秋山澪 中央橋付近にて確保】

これで残る逃走者は中野梓、木下秀吉、櫛枝実乃梨、川嶋亜美の4名のみとなった。

敗者復活戦は残り5分を切っていて、今だ成功者は0。  
果たして成功者は現れるのだろうか!?

敗者復活 Part2 次々と捕まっていく逃走者…！ (後書き)

テストが忙しかった…まだ追試が残っているけど。  
まあこれくらいは更新してもいいよね…？

敗者復活 Part3 復活者は現れるのか!?? (前書き)

これにて敗者復活終了。

いよいよ後半戦へと突入していきます。

## 敗者復活 Part3 復活者は現れるのか!??

現在残っている逃走者は中野梓、木下秀吉、櫛枝実乃梨、川嶋亜美の4名。

果たしてこの中で復活する逃走者は現れるのか!?

秀吉「折角ここまで来れたんじゃ…なんとしても復活したいのお…」

友人の2名がすでに捕まってしまった木下秀吉。

彼女達のためにもがんばらないといけないと誓ったのであった。

秀吉「バスまであともう少しなのじゃが…なかなか前に進めないのお…」

エリア内には50体のハンター。

その中から逃げ切るのは容易ではない。

亜美「まったくまだ平梅駅に着かないわけ? 亜美ちゃんもう疲れたんですけど…」

とは言ったもののちゃんと逃走中に参加してくれる川嶋亜美。

そんな彼女の背後に…

ハンター「…」

ハンターが…

亜美「大体あま…やばっ！」  
ハンター「…！」

見つかった…！

亜美「無駄にハンター速いし…！」

必死に逃げる亜美。

しかしハンターの方が…

亜美「くっ…！」ポンッ！

速かった…。

亜美「またあの窮屈な場所に閉じ込められるわけ…？」

【川嶋亜美 平梅駅前郵便局前にて確保】

梓「やっとここまで来れた…！」

中野梓がいるのじゃホテル水道橋前。

そう、彼女はついに平梅駅前へと着いたのであった。

梓「あ… あれは…」

彼女が見た人物。

それは道路の向こう側にいるある逃走者であった…。

実乃梨「平梅駅…！」

優勝候補No.1とも言われている櫛枝実乃梨であった…。

そんな彼女の實力も敗者復活戦でも健在である。

実乃梨「ハンターに追われたけど… ついにここまで来れた…！」

ハンターに何度も追われることがあったが、その度に撒いている。  
さすがは現役アスリートと言ったところだろうか。

梓「とりあえずバスへ向かう…。ハンターにも気をつけて…」

当たりを確認しつつ、横断歩道を使って平梅駅のバス停留所へと向かう。

果たして無事にたどり着く事ができるのか！？

ホテルニューカマーズ前にいる櫛枝実乃梨。

彼女のいる場所から平梅駅まではおよそ200m。

たとえハンターに追われていたとしても彼女なら逃げ切れる自信があったのだ。

実乃梨「あ！あれがバスかな！？」

目的のバスを発見した実乃梨。  
一目残にバスへと走っていく。

ハンター「…！」

実乃梨「…なんているんだよ…！」

しかし行く手をハンターが阻んでいた。  
バスのせいでハンターがその後ろで歩いているというのを知らなかったのだ。

実乃梨「とりあえず逃げるしかない！」

そのまま突っ走って、平梅駅とは反対方向であるホテルパイロットインへと向かっていく実乃梨。  
しかし彼女が向かう先にも…

ハンター「…！」

ハンターが…！

実乃梨「これはまずい…こっちだ！」

横断歩道を渡ってビルの多い市内へと逃げ込むことにした。  
ハンターとの距離はあまり縮まらずに逃げれる事が何よりの救い。

ハンター「…！」

しかし横断歩道を渡った先にもハンターが1体現れたのだ。

実乃梨「どうということ…！」

来た道に戻るうにも後ろからはハンター2体が追ってきている。

仕方なく彼女が横断歩道を渡りきるがすでにハンターは近くにいた。  
そして結局…

実乃梨「…っ！」ポンッ！

捕まってしまった…。

実乃梨「最後油断してたな…そこが敗因だ。」

【櫛枝実乃梨 ピピカビル前にて確保】

梓「向こうにハンターが行ってる…！今だっ！」

実乃梨の方へとハンターが行ってしまった。今が停留所へ向かうビッグチャンス。

急いで停留所のほうへと向かう。

梓「はぁ…はぁ…！」

しかしそれをハンターが…

ハンター「…！」

見逃さない…！

梓「ここであつてますか？」

バスの入口付近で立っている男性に聞く梓。  
梓の問いにその男性はこう答えた。

男性「はい、ここは敗者復活専用バスです。ご利用したいのであれば  
ばご乗車ください」

その間にもハンターは近づいてくる。  
しかし梓は気づかない。

梓「はい！ありがとうございます…来た！」

そしてやっとハンターに追われている事に気づいた梓。  
ただ彼女はバスの入口の真ん前にいる。  
気づいた瞬間すぐに乗ったため確保はされなかった。

梓「とりあえずこれで成功！？やったああああ！」

そして中野梓：ここで敗者復活が決定した。

【中野梓 敗者復活決定】

残りの逃走者は木下秀吉のみ。

残り時間は2分弱だが秀吉がいるのはハイパーデパート前。  
果たして間に合うのだろうか！？

秀吉「参ったのお…もう時間的にも行くしかないようじゃ。」

そんな秀吉をハンターが…

ハンター「…！」

捕らえた…！

秀吉「…まずいのじゃ！」

そして秀吉もどうやら気づいたようだ。  
もちろんハンターは逃げる秀吉を見逃さない…！

秀吉「…あつ！」ポンッ！

ハンターから逃れる事は難しいのだ…！

秀吉「おいしいのじゃ…」

【木下秀吉 エドモンドホテル付近にて確保】

ミッション4成功者に復活した中野梓が加わり残り50分は以下の7人の逃走者で始まることとなった。

平沢憂、田井中律、中野梓、吉井明久、高須竜児、御坂美琴、千石撫子

果たして何人が逃走成功するのだろうか！？

敗者復活 Part3 復活者は現れるのか！？ (後書き)

なんとOPゲームで捕まった中野梓が敗者復活決定。

しかし残り50分で逃走者7名：対するはハンター6体。

果たしてどうなるのか！？

一方その頃…（前書き）

今回はショートストーリー！。

内容は敗者復活戦を行っているときのミッション4成功者6人による舞台裏です。

一方その頃…

丁度敗者復活戦を行っていた頃、逃走者6名はエリア外の『ホテルオンサード』というホテルに来ていた。

このホテルオンサードは逃走エリアとなっている平梅駅東側の反対側の西側の近くにあるホテルなのだ。

明久「これ全部食べていいの！？本当に！？」

コック「ええ、お好きにどうぞ。」

このホテルで現在最高難易度とも言われたミッション4の成功者6名のみが豪華な食事を取ることができていたのだ。まさに勝者の特権である。

??「全て一流シェフが作ったものです。この日のために私が呼び寄せました。」

憂「あ…あなたは？」

黒いスーツに帽子を深く被る謎の男性。

逃走者からは顔が一切見えないようになっている。

??「申し遅れました。私がこの逃走中の企画者である人物です。

名はいえません。」

美琴「どうということよそれ…」

??「まだあなた達には知らなくてもいい…ってことですね。」

竜児「…？」

目の前の怪しげな男性。

彼自身の事は一切話さない模様。

??「とりあえず今後の予定について説明します。現在平梅市では大規模な敗者復活戦が行われています。その間はここで食事を取りなりしてても構いません。そして敗者復活者と合流したらすぐに平梅市に戻ります。」

撫子「あれ…でも安全地帯へ移動するとか書いてあったよ?」

??「それはパレードが行われる間だけだ。もうパレードは行われていないし、平梅市も通常に戻っているからな。」

撫子「そうなんだ…」

??「とりあえず私はこれで失礼するよ。」

結局その男性の正体は謎のままであった。

まあ別に気にする事でもないだろうということできとりあえずその場は収まった。

律「まあ折角のご馳走だ!少しでも食べようぜ!」

憂「そうですね…」

この日のためにだけに振舞われる豪華な食事。

彼らはバイキング形式で好きな物を取って食べていった…。

明久「このサンドイッチもスパゲッティも超おいしい!生きてて良かった!」

美琴「大袈裟ね、おいしいけど。」

竜児「しかしそんなに食べて大丈夫か?後で走れなくなっても知らないぞ?」

明久「うつ…そうだね…」

そして幸せな時が続く事数十分…

ようやくバスが到着したようだった。

スタッフA「それではバスが到着したので乗ってください。そこに敗者復活者が乗っています。」

スタッフに連れられてバスへと乗る6人。  
そのバスに乗っていたのは…

梓「律先輩！それに憂も！」

ご存知敗者復活者である中野梓だ…。  
広いバスの割には彼女1人しかいないためかなり少なく感じる。

律「おお、梓だけ敗者復活か！どんだけ難しかったんだ、それ？」  
梓「まあ話せば長くなりますが…」

こうして7人を乗せたバスは平梅市の逃走エリアへと戻っていったのであった…。

一方その頃…（後書き）

逃走中面白かったです。

でもなんか物足りなかった…何故だろう。

個人的にはアッキーナ、田中に逃走成功してもらいたかったですが…。

結果的にはおかもとまりでしたね。

予想外の成功者だったので実に逃走中らしくていいと思います（え

後半戦スタート！新展開突入！（前書き）

今回は一番の山場となるドラマパート。  
本当に書いてて自分を殴りたくなる！

## 後半戦スタート！新展開突入！

平梅市民と警察による激突は県内のみならず、全国的に大々的に各地メディアなどに放映される事となった。

内容は平梅市の市長となった坂本市長の発言によりこういうことが起こってしまったといったってシンプルなもの。

明らかに坂本市長が悪いのは誰の目から見てもわかるものであった。

市長「翔子、そして土屋秘書。すまなかつたな…俺が無責任なばかりに…」

秘書「…」

夫人「仕方ない…でも私は雄二がやった事は決して間違っているとは思わない。」

市長「そうか…ありがとうな…」

そしてデモが起こった数日後…

市長「今回の事件は俺の無責任な発言によって起こったものだ。平梅市民の皆さん、本当に申し訳ありませんでした…！」

平梅市民への謝罪と共に坂本市長は辞職した。  
こうして平梅市に平和が訪れたのであった…。

憂「そろそろ始まる…」

平梅駅前で降ろされた7人の逃走者には5分の猶予が与えられた。  
ハンター6体はOPゲームと同じ平梅城からスタートする。  
しかしその情報は逃走者全員には知らせれていない。

美琴「カウントダウン始まるね…！」

10

9

8

梓「折角復活したんだから楽しまないと…」

7

6

明久「通報してさらにお金を貯めるんだ…！」

5

4

竜児「…」

3

2

律「負けられない！」

1

0！

撫子「始まった…」

ガコン！

ハンター「…」

平梅城からハンターエリア内に6体放出。  
この瞬間、残り50分のゲームが始まった…。

明久「ミッションとか来たらやりやすいんだけどな…」

裏切り者である吉井明久。

現在彼は3人通報ですでに30万円貯まっているのだ。

明久「まあじっくり…」ダツ！

彼が遠くに見つけた者、それは…

ハンター「…」

ハンターだ…。

しかしハンターは彼に気づいていない。

明久「さすがに6体はきついよな…」

逃走者7人に対しハンターは6体。

彼らに安息の場所など…ない！

幸運にも一番平梅城から遠い位置にいる平沢憂。  
ホテルカンパニーの前で身を潜めているのだ。

憂「無理に動くのは危ない…」

ハンターは平梅城から放出されたためこちらに来るまではかなりの時間がかかる。

ある意味一番運がいいのはもしかしたら彼女かもしれない。

憂「裏切り者…誰だろうな…」

しかし逃走者にとって怖いのはハンターだけではない。

まだ裏切り者が捕まっていないのだ。

いっどこで見られるか分からないため常に回りを見てないといけないのだ。

憂「自首してもいいんだけどな…」

ハンターと裏切り者の恐怖自首に心が動く…女。

梓「私だけこの快感を味わってないかったからつまらなかったけど…今本当に楽しい！」

見事敗者復活者となった中野梓。

残り50分を逃げ切れれば他の逃走者と同じ賞金を獲得できる。

梓「そっいえば市長の件はどうなったんだろう…私はメールだけでは知らないけど…」

丁度その頃、平梅市では新たな市長が誕生していた。

市民A「北村市長万歳！」

市民B「坂本市長のようになるなよ！」

北村新市長（演：北村祐作）「もちろんだ！絶対に平梅市をいい市にしてみせる！」

それからと言うものの北村市長は平梅市のために全力で働いた。時にはボランティアなど積極的に市民のためを思って行動していた。その行動に平梅市民は彼を「史上最高の平梅市長」だと言われるようになった。

そんなある日、北村市長はとあるレストランで食事を取っていた。やはりこういう場所に行っても彼はやはり人気の的となっていた。

北村市長「市民のためを思って行動していますので！」

市民C「本当に素晴らしい市長だ！」

市民D「平梅市だけではもったいないくらいだ！」

食事を終えた北村市長。

レストランの外に停めてある車へと向かうために駐車場へと向かった瞬間…事件は起こった。

??「北村市長！見つけたぞ…！」

??「…」

マスクを被った謎の人物が2人目の前に現れたのであった。

北村市長「なんだお前らは…？」

??「…やれ。」

??「…（コクリ）」

そして次の瞬間、一人がロープを取り出し北村市長を縛ったのであった…。

あまりにも速すぎて全くその状況がつかめないほどだった。

市民C「なんだなんだ…ってあれは北村市長！」

市民D「とりあえず警察に…ってあれはなんだ！」

空を見ると遠くから怪しいヘリコプターが近づいてきていた。そしてヘリコプターはその駐車場へと着地した。

??「北村市長を乗せるぞ！」

??「…（コクリ）」

何も出来ない市民達。

そして北村市長は謎の人物に連れてかれてしまった…。

??「土屋秘書…最後のお仕事お疲れさまだ。」

??「…（コクリ）」

北村市長「お前らの目的はなんだ…？そして誰なんだ…？」

北村市長が2人に尋ねる。

すると彼らはマスクを脱ぎ去った。

北村市長「お前は…坂本市長…！」

マスクを被っていた2人。

それは紛れもなく坂本旧市長とその秘書の土屋であつたのだ…。

坂本旧市長「悪いがお前には俺の計画に付き合ってもらつ。無駄な抵抗はさせない」

彼が行うとしていた計画…

その計画が逃走者の運命を左右する…！

後半戦スタート！新展開突入！（後書き）

やっと小説を書く時間ができました。  
今月中にはこの小説終わらせたい。

ミッション5 Part1}ハンターの監視を阻止せよ！}(前書き)

ここまで来るのに長かった…。

しかしすでに次のやつを考えている時点でダメですね…

## ミッション5 Part1～ハンターの監視を阻止せよ！～

プルルルル！プルルルル！

竜児「なんだ…ミッション5だと！？」

梓「『平梅市新市長を人質に取った旧市長を乗せたヘリコプターが平梅市上空にいる…』」

美琴「そのヘリコプターには2体のハンターが乗っており、上空からの監視を開始する…」

撫子「そのハンターは逃走者を見つけ次第、地上のハンターにその位置情報を伝える…」

律「阻止するには平梅城にいる花火師に花火を撃ってもらわないといけない…』」  
「どういうことだよ、これ！？」

憂「あ、もしかしてあのヘリコプターですかね…？」

明久「そんなの聞いてないよ！通報しにくくなっちゃったじゃないか！」

ミッション5…ハンター監視を阻止せよ！

現在平梅市上空には平梅市新市長である北村市長を人質に取った旧市長の坂本市長を乗せたヘリコプターが平梅市上空にいる。

そのヘリコプターには2体のハンターが乗っており、ゲーム終了まで上空からの監視をし続ける。

上空のハンターは逃走者を見つけ次第、地上のハンターにその位置情報を伝える。

逃げるのは容易ではない。

それを阻止するには平梅城にいる花火師に花火を撃ってもらわないといけない。

律「行くよ！そんなの行くに決まってるじゃん！」

平梅城にはかなり近い田井中律。

ハンターの危険を顧みずどうやらミッションに行くようだ。

律「だってこのまま監視なんてされたらひとたまりもないよ…それに平梅城からかなり近い私が行かないと…」

そして同様に近いからという理由で行くのが…

明久「とりあえず平梅城まで行ってみるか…」

裏切り者、吉井明久だ。

明久「ミッション成功したらそこにいる他の逃走者を通報すればいいし、行ってみる価値はあるかも…」

どうやら律とは目的が違うようだ…。

果たして彼の案は成功するのだろうか！？

憂「行かないよ。申し訳ないけど平梅城まで遠いし…」

ミッションには参加しない平沢憂。

目的の平梅城まではかなり遠いホテルカンパニーの前にいるため動かないようだ。

そしてなによりヘリの監視が怖いらしい。

ただでさえハンターが6体いるだけにさすがに動きにくい。

憂「下手に動いたら捕まるしね…」

平梅市上空を飛んでいる一機のヘリコプター…

上空のハンター「…！」

上空のハンターが誰かを見つけたようだ…。  
その人物とは…

撫子「へり怖いな…」

千石撫子だ…。

上空のハンター「…（ブツブツ）」  
ハンター（地上）「…！」

彼女の位置情報が地上のハンターに伝えられてしまった…。  
エリア内のハンター6体が一斉に彼女の確保へと動く…！

撫子「早くあのへりなんとかしてほしいな…」

ホテル水道橋前に身を潜める千石撫子。

その姿をハンターが…

ハンター「…！」

見つけた…！

撫子「あっ…ハンター来てる！逃げないと…！」

急いで裏道へと出る撫子。

しかし逃げた先にも…

ハンター「…！」

別のハンターが…。

撫子「あれ…こっちからもハンター来てる…あれ…？」

完全に戸惑っている撫子。

しかしハンターはそんな彼女を待つはずもなく…

撫子「あっ…」ポンツ！

目の前の逃走者をいつも通り捕まえたのであった…。

撫子「いきなりこんなにハンターが来るなんて…」

【千石撫子 ワンダーランド付近にて確保 残り6名】

ブルルルル！ブルルルル！

明久「メールだ…。『千石撫子確保 残り6名』」

竜児「撫子ちゃんが…へりにやられたか…！」

メールには書いてないがへりでやられたのだろうと逃走者の皆は思っていた。

だから撫子の確保で改めて上空のへりが怖い事を知ったのであった…。

律「やっと平梅城に着いた！」

ハンターにも気をつけながらやっとたどり着いた田井中律。  
しかしここで問題点が一つ。

律「えつと…その花火師ってのはどこにいるんだ…？」

メールには花火師は「平梅城に居る」としか書いてない。

平梅城といってもかなり広いためその花火師をまず探さないとけない。

しかも平梅城は平梅駅前と違って見通しが良く、空から発見されやすい。

いち早く花火師を見つける必要があるそうだ。

律「仕方ない、一人一人に聞くのは時間がかかる。見た目が花火師っぽい人を探るか…」

と、そこに近づく者が一人。

それは…

明久「通報したいけどな…もう残り6人だしミッションに参加するか…」

裏切り者、吉井明久であつた…。

このミッションも彼に影響するために参加するようだ。

明久「田井中さん！」

律「あなたは吉井君だっけ？丁度よかった…ミッションの内容見た？」

明久「知ってるよ！花火師を探せばいいんだよね？」

律「そう！私はこつちを探すから吉井君はあっちお願いできる？」

明久「了解！」

こうして明久は裏切り者ではあるが、自分のためにミッションへと挑むのであつた…。

明久「すいません！この辺に花火師っていませんでしたかね？」

女性A「ううん…知らないわね…」

明久は一人一人聞いて回る模様。

そして律は先ほども言つてたとおり、見た目が花火師っぽい人を探すようだ。

果たして見つける事ができるのだろうか！？

律「どこだろ、花火師つてのは…」

平梅城がある本丸へと侵入した律。  
そこにはご存知の通り平梅城があり、近くにはすでに捕まってしまった13名がいる牢獄がある。

律「ん…あそこに座っている人は…？」

4台の自動販売機が設置されており、近くにはお土産やさんがある休憩スペースに座っている一人の男性。  
雰囲気は先ほど見た一般人と全然違うのがすぐわかる。

律「間違いない…彼が花火師に違いない…」

急いで彼の元へと急ぐ律。

幸い周りにはハンターはいない。

気をつけるとすれば上からの監視だけだ。

律「すいません！」

??「なんだね？僕なんか用があるのかな？」

律「あなたは花火師ですか！？もしそうだったらやってもらいたい事があるんです！」

??「いかにもそうだ！だが落ち着いてくれ。話を詳しく聞かせてくれないか？」

律「ええ、もちろんです！」

律は目の前の花火師に現在の状況を話す。

坂本旧市長が北村市長を人質に取ってへりで上空に居るという事。それを阻止できるのは花火師だけなんだという事。  
知っている事を全て話した。

??「大体わかった。僕もあの野郎にはいつか仕返しをしたかったところなんだ」

律「やってくれるんですか!？」

??「お安い御用だ。しかしそのための火薬が必要なんだ」

律「火薬ですか?それはどこにいけば手に入るんですか!？」

??「橘橋付近にある『オキナ通り商店街』という場所は知っているか?その商店街に僕の店がある。その商店街にそういう物を扱っている店は僕の店しかないからすぐわかるだろう。とりあえずそこにいる知人に話しかけてくれ。そうすれば火薬をもらえるだろうから……」

律「わかりました!ちょっと待っててください!」

まだ終わりではなかったのだ…。

花火師を見つけただけでは終わらない…実に過酷なミッション内容であった。

ミッション5 Part1〜ハンターの監視を阻止せよ!〜（後書き）

逃走中同盟…俺ってどの位置なんだろうね（え  
ってかそもそも所属してたっけ（あ

## ミッション5 Part2 火薬入手へ (前書き)

逃走中同盟について知りました。

どうやらこっそり入っていたみたいです (

## ミッション5 Part2 火薬入手へ

ゲーム終了まで残り40分。

現在平梅市上空にはハンターが乗っているヘリがあり、彼らに見つかると地上のハンターに逃走者の位置情報を知らされてしまう。

阻止するには平梅城にいる花火師に花火を打ち上げてもらう必要がある。

果たして逃走者達はこのミッションを成功できるのか！？

律「今から行ったら余計に時間がかかる…仕方ないけど他の人に行ってもらおう…」

そこで律は携帯を取り出し、他の逃走者達にメールを送る事にした。電話だと時間がかかるしこっちの方が早く済むからだ。

律「よし、送信！これでなんとかなるだろう…」

そしてメールを打ち終わった律はその休憩スペースの所に身を潜める事にした。

その休憩スペースには屋根がついており、上空からのハンターの監視を防げるのではないかと思ったのであった。

律「頼むぞ皆…！」

プルルルル！プルルルル！

梓「メールだ…あ、律先輩からだ。」

一斉送信された田井中律からのメール

花火師を見つけました。

しかし花火を打ち上げるためには火薬が必要だと言っていました。  
橘橋の近くの『オキナ通り商店街』に花火師の店があるようです。  
花火を扱っている店は一つしかないからすぐ見つけられるらしいです。

その人に話しかければ火薬をもらえるそうなので、それを持って  
平梅城に来てください。

梓「律先輩らしくないメールですね…」

やけに改まっているせいだろう。

律も知らない人にメールを送るといことなので、丁寧に書いたぞ  
うだ。

梓「とりあえずあのへりは厄介ですしね…。商店街も近いですし行  
きましよう。」

どうやら中野梓は商店街に行く模様。

しかしミSSIONに動く「ハンター」に捕まるリスクが高まる…！

憂「律さんには申し訳ないですけど…やっぱり行けません」

クラスメイトの梓が行く中、平沢憂はどうやらミッションへは行かない模様。

平梅城からは近いといえど、オキナ通り商店街から彼女がいるホテルカンパニー前は距離がある。

憂「現にハンターは見ましたけど追われてないですし…じっとしているのがやっぱり安全ですよ…」

美琴「ミッション全然参加してないし今度こそ行くわよ」

これまでミッションに参加する意志はあったものの、なかなか貢献できていない御坂美琴。

今回のミッションにも参加するようだ。

美琴「ただ若干遠いのよね…まあヘリからの通報がなくなるんだから仕方ないか…」

彼女がいるのはゲームセンターのワンダーランド付近。

商店街までは若干距離がある。

美琴「とりあえずハンターに見つからないようにしないとね…」

そんな彼女の近くに…

ハンター「…」

ハンターが…！

美琴「とりあえずこっち…ってやば…！」

ハンター「…！」

見つかった…。

美琴「ここで捕まるわけには…！」

ワンダーランド付近は逃走エリアの中でも小道がいくつもあり、曲がり角も多数ある。

それを上手く利用して、美琴は逃げていく。

ハンター「…？」

そしてハンターを上手く撒いたようであった…！

美琴「ハンターをどうやら撒いたようね…でも近くにいるだろうし早くこの場を離れないと…！」

明久「なるほど…田井中さんは花火師を見つけたのか…」

吉井明久も律と一緒に別の場所で花火師を探していた一人。しかし探す目的は律とは全然違うのだが…。

明久「とりあえずここで待とう。ここなら見られないだろう…」

木々が多いエリアに身を潜める事にした。

上空のハンターから見られないようにおとなしくしている。

明久「ミッション終わったら田井中さんを即通報すればいい。申し訳ないけど金欲しいからね…」

お金に目がない…男。

梓「ここであつてますよね…?」

オキナ通り商店街にたどり着いた中野梓。

ハンターに追われることもなく、無事である。

梓「花火の店は…あ、これかな？」

一つの店の前に立ち止まった梓。

その店にはちゃんと「花火専門店」と書いてある。

梓「すみませんー誰かいますかー?」

??「はい、なんの用でしょう?」

中から出てきたのは一人の女性。

Tシャツにジーンズといういたってシンプルな格好だが、何故か腰

には刀が差してある。

梓「火薬が欲しいのですが…一つもらえますでしょうか？」

??「もしかしてうちの花火師が必要としているのですか？」

梓「はい！その通りです！」

??「仕方ない…インデックス！奥から火薬を一つ持ってきてくれる！？」

??「了解ー！」

奥から出てきたのは火薬を持った一人の少女。  
見るからに教会に居そうなシスターである。

店員B（演：インデックス）「かおりーっ。これであってる？」

店員A（演：神裂火織）「あってますよ。では、これをこの少女に渡してください。」

そう言っただけ渡されたのは小さな袋。

中にどうやら火薬が入ってるようだ。

店員A「では、またのご来店を」

梓「はい！ありがとうございます！」

なんとか火薬をゲットした梓。

果たして無事に花火師の元へと届ける事ができるのか！？

〽牢獄トーク〽

当麻「ってかなんであいついるんだろ……？」

唯「当麻君あの人と知り合いなの？」

当麻「まあな……」

花火師（演：ステイル・マグヌス）「……」

## ミッション5 Part2 火薬入手へ (後書き)

ゲストキャラが多い今回の逃走中。  
まとめてみると…

旧市長：坂本雄二 (バカとテストと召喚獣)

旧市長の妻：霧島翔子 (バカとテストと召喚獣)

秘書：土屋康太 (バカとテストと召喚獣)

新市長：北村祐作 (とらドラ！)

花火師：ステイル マグヌス (とある魔術の禁書目録)

店員A：神裂火織 (とある魔術の禁書目録)

店員B：インデックス (とある魔術の禁書目録)

かなり出てますねー。

ミッション5 Part3 花火を打ち上げろー！ (前書き)

30000アクセス突破！

皆さんの応援のお陰です！

ありがとうございます。

## ミッション5 Part3 花火を打ち上げる！

ゲーム終了まで残り35分。

現在火薬を持っているのは中野梓ただ一人。

これを花火師に持っていけば上空のヘリからの監視を止めることができる。

果たして無事に届けることができるのだろうか！？

美琴「あれは…」

遠くに梓を確認した御坂美琴。

梓の手に小さな袋があるのを確認した。

美琴「あの子が持っているならもう大丈夫だね。じゃあ私は隠れま  
すか…」

またしてもミッションに貢献できなかった…女。

梓「これを…届けないと…」

平梅城へと急ぐ中野梓。

その近くにある人物が…  
それは…

竜児「お、もう商店街に行ったのか？」

高須竜児だ…。

彼もミッションに参加しようと商店街へ向かっていたところであった。

梓「はい、この袋を花火師に届けばいいそうです」

竜児「そうか…じゃあ俺も行っていいいか？」

梓「とても心強いです」

こうして竜児と梓は合流した。

しかしそれを見ていた…

上空のハンター「…！」

上空のハンター…！

直ちに二人の位置情報が地上のハンターに伝えられる。

梓「ハンター来てませんか？」

竜児「こっちは大丈夫そうだな…危ないといえば上空のハンターだが…」

すでに通報されている事を知らない二人。  
その二人の近くに…

ハンター「…」

位置情報がわかったハンター…！

梓「もうそろそろ平梅城ですね…」

竜児「おう！」

梓「油断しないで行きまし『中野！ハンター来たぞ！』本当ですか！？」

ハンター「…！」

本当だ…。

竜児が遠くにいたハンターに気づいたようだ。

梓「まずい…こっち来られたらミッション成功できない…！」

竜児「まさかへりの通報か…？」

ハンターが最初に気づいたのは…

竜児「こっち来た…！」

竜児のほうであった…。

また上空からのハンターも彼の位置情報を見失うまで伝え続けている…。

竜児「…ああっ！？」ポンッ！

へりから監視されたら逃げる事は…不可能だ。

竜児「でもこれで中野は平梅城に行けたはず…！」

最後までお人よしな…男。

【高須竜児 ホテルアノコロビアン付近で確保 残り5名】

梓「高須さんが捕まってしまいました…だからこそこれを届けないといけません！」

竜児にハンターやヘリの監視が行ったので逃げる事ができた梓。彼の犠牲を無駄にしないためにも梓はなんとしても平梅城に行くようだ。

梓「一度は死んだ身です！だからがんばらないといけません！」

自分が袋を持っている以上は自分が行かないと全てが無駄になってしまう。

ハンターに気をつけつつも着々と平梅城へと向かう梓。

梓「戻ってきました…平梅城に…」

そしてなんとか平梅城へとたどり着いたのであった。

しかしここで一つ問題点があった。

それは…

梓「花火師ってどこにいるんだろ…」

花火師がどこにいるかどうか分からないことだった。まさに律がきたときと同じである。

しかし先ほどまでの律とは違う点が一つあった。

梓「とりあえず律先輩に聞いてみよう」

それは律がすでに居場所を知っている事。

電話をすればすぐにその場所が分かるのだ。

プルルルル！プルルルル！

律「梓からだ！もしもし？」

梓「先輩！火薬を持ってきました！」

律「本当か！よくやったぞ梓！」

梓「それで花火師はどこにいるんですか？」

律「平梅城の目の前にお土産やさんがあるんだ。そこの近くにいる。」

「

梓「分かりました！今すぐ行きます！」

梓は牢獄にいた。

牢獄からはそのお土産やさんも見えるためすぐその場所を把握したのであった。

律「梓！こつちだ！」

梓「今いきます！」

門をくぐり、本丸へと侵入した梓。

律が手を振って彼女に呼びかける。

律「この人が花火師だ。今すぐその袋を渡してくれ」

花火師「火薬を持ってきてくれたのか！？」

梓「はい！これであってますか？」

花火師「そうだ！今から花火を上げる準備をするからちよっと待つ

ててくれ！」

そう言うとな火師はどこかに消えていった…。

梓「なんとかこれでOKみたいですね」

律「ああ、とりあえずな」

花火師「いつぞやの恨みを晴らさせてもらっぜ…」

花火師が旧市長に持ってた恨み。

その事については坂本が平梅市の市長に就任した時までさかのぼる…！

花火師「花火ですか？」

秘書「はい、坂本市長就任祝いとして是非とも協力して欲しいのだが…」

花火師「お安い御用だ」

坂本市長の秘書である土屋は事前にある物を頼んでいたのだ。

それは花火…平梅市でも一番有名な花火職人である彼にパレードの協力をお願いしていた。

もちろん花火師も快く引き受けた。

店員B「ステイルー。もう寝たほうがいいかもだよ？」

花火師「今回の仕事はどうしても成功させたい。だからもうちょっとがんばる事にするよ」

店員B「ふーん…」

そしてパレード当日。

準備もばっちりできており、全ては順調であった。

しかし…

パーンッ！！！！！！！！

花火師「どうということだ…！何故2つしか上がっていない…！」

彼が準備した花火は全部で10発。

しかし実際に打ち上げられたのは2発のみであった。

そう…彼の花火は…

唯「行くよ！せーのっ！」

当麻「おりゃ！」

ガチャン！

逃走者によって阻止されていたからだ…！

何故こんな事になったのか分からない花火師。

一体誰が何の目的で花火を打ち上げらなくしたのか分からなかったのだ。

秘書「どういうことですかね？なんで2発しか上がらない？」

花火師「それが分からないんだ。何の問題もなかったはずだが何者かがそれをできなくしたんだ！」

秘書「そちらの責任である事は変わりません。では失礼します」

この事で信頼を無くしてしまった花火師。

その影響で他の仕事もキャンセルされてしまう始末。

ちゃんとやったにも関わらず坂本市長からは罵声を浴びられ、いつしか花火師は彼に恨みを持つようになったのだ。

花火師「さあ、わが花火達よ行くのだ！」

そして花火師によって花火は…

パーンッ！！！！！！！！

上がった…。

- - - MISSION CLEAR - - -

旧市長「花火？何故今上げるのだ…？」

花火が上がったのを確認した旧市長。

しかしそれと同時にある事に気づいたのであった。

旧市長「おい！何で平梅城にへりを降ろす！」

上空のハンター「ボスの命令です」

旧市長「…クソおおおおおおおおお！」

運転手は花火を合図にへりを平梅城へと向かっていった。

一体そのボスとは誰なのか…

彼には知る余地もなかった。

プルルル！プルルル！

律「メールだ。『ミッション』成功。田井中律、中野梓の活躍によりハンターからの監視は阻止された。』」

梓「やりましたよ先輩！」

律「だな！」

しかしこの瞬間をずっと待っていた男がついに動き出した。

明久「さて…よくがんばってくれたけど通報するか」

裏切り者である吉井明久だ…！

彼は梓の行く先で二人がどこにいるかはすでに把握しているのだ。

明久「とりあえず電話…ってハンター！」

ハンター「…！」

気づかれてしまった…！

彼が通報しようと思った矢先にハンターに気づかれてしまったのだ…！

明久「自首だ！こういうときは自首するのが一番だ！」

ここで捕まったら今まで貯めてきた金が全て無駄になってしまう。そう思い電話ボックスを探すが見つからない。

明久「ダメだ…こんなところで捕まったらっ…！」

しかしハンターとの距離は縮むばかり。  
そして…

明久「いやあああああああ！」ポンッ！

捕まってしまった…。

明久「僕の金があああああああ！」

確保により全ての金が…無くなった…。  
しかし彼にとって怖いのは…これからだ。

【吉井明久（裏切り者） 平梅城前歯科医院にて確保 残り4名】

プルルルル！プルルルル！

当麻「吉井明久（裏切り者）確保！残り4名！」

亜美「あいつが裏切り者だったのか…！」

美乃梨「なるほど…」

まひる「…」

瑞希「帰ってきたらお仕置きですね…？」

美波「もちろんよ！」

秀吉「（瑞希殿…目が死んでいるのじゃ…）」

明久に通報された人、また彼の友人が怒りの炎に満ちている。  
明久の運命はいかに！？

律「あいつが裏切り者だったのか…！」

梓「危なかったですね…」

憂「まあそうだと思いましたけど…」

美琴「でもこれで裏切り者はいなくなっただわ！」

そして裏切り者の確保により安心する4人の逃走者…。

しかしまだエリア内にはハンターが6体いる。

油断は禁物だ。

ゲーム終了まで残り25分。

現在の逃走者は田井中律、中野梓、平沢憂、御坂美琴の4名のみ。  
果たして何人が逃走成功となるのか！？

ミッション5 Part3 花火を打ち上げろ！ (後書き)

今回は長い気がするが気のせいかな

そしてなんと4名中3人はけいおんメンバー。

なんという…

ミッション6 Part1 暴走列車を止めるー (前書き)

ついに逃走中もクライマックス。

ドラマパートもそろそろ終わりだと思つとなんかいいですね (え

## ミッション6 Part1 暴走列車を止めるー

ゲーム終了まで残り25分。

現在の逃走者は田井中律、中野梓、平沢憂、御坂美琴の4名のみ。  
対するハンターは6体。

果たして誰が逃走成功するのか!?

律「お、ヘリが降りてきているな…見に行ってみるか？」

ハンターヘリを阻止するのに貢献した田井中律と中野梓。  
二人は平梅城の本丸に居た。

梓「でも中にハンター乗ってますし…ちょっと危険な気がします」  
律「だな、ここに居たほうが安全かもな…」

平梅城に降り立った一機のヘリコプター。

中からは土屋秘書、坂本旧市長が出てきた。

市民A「おい！なんでこういうことをしたんだ？」

市民B「そうだ、お前はもうこの市内に必要としていないんだぞ？」

旧市長「復讐だよ…！」

市民C「ん？どういうことだ？」

旧市長「復讐してやるんだよ！お前らが俺を辞めさせた罰なんだよ！」

彼の言っている事がよくわからない市民達。

しかし彼がこれから言う台詞で悲劇が訪れる事となる。

旧市長「もしもし、翔子か？そちらの準備はできたのか？分かった……ありがとう」

どうやら電話をしている模様。

携帯電話を閉じて、彼は市民達にこう言い放った。

旧市長「今、平梅駅に毒ガス集団を乗せた列車が走っている。毒ガスを吸ったら間違いなく死に至る、つまりは平梅市は滅びる運命なんだよ！そうならないためには今すぐ逃げるんだな！だって列車を止める術などないのだから！」

彼の言葉によって市民達が一斉にパニックになる。

そして気がつく、彼とその秘書は跡形もなく消えていた。

そこに残っていたのは新市長とヘリのみであった……！

旧市長が電話をしていた相手は彼の妻。

彼女はあるところで計画を実行していた。

夫人「あの列車……！」

ここは平梅市からある程度離れていた駅。  
そこには回送中の一つの列車があつた。

夫人「行きましょう…」

毒ガス集団「…」

その列車に乗り込む夫人と大量の毒ガス集団。  
当然それを見た駅員が注意する。

駅員「おい君達、その列車は回s…ウツ…！」

しかし催眠ガスでやられてしまう。  
その間に全員が列車へと乗り込んだ。

夫人「これも雄二のため…！」

こうして列車は平梅市へと走っていった…！

??「…」

そしてこの様子を画面越しに見ていた謎の人物。  
彼は画面をスライドさせるとそこには「ADD HUNTERS」  
という文字が…

??「…」

画面上に出てきたハンターリストから10体を選ぶその謎の人物。  
選び終わった瞬間…

ハンター「…」

毒ガス集団が乗っている列車へと10体のハンターが転送された…！

ブルルルル！ブルルルル！

美琴「なんだろ…ってまたミッション!?」

憂「『ミッション6。現在暴走列車が平梅駅へと走行中だ。その中には毒ガス集団とハンター10体が乗っている…』」

律「残り10分になると彼らはエリア内に放出される。毒ガス集団は平梅市全体に毒ガスをばら撒き、それを嗅いだ逃走者は全員1分間動けなくなってしまう。『なんだと!?』」

梓「『阻止するにはエリアのどこかにあるレバーを見つけ出し、引かないといけない。ただしそこには3つのレバーが置いてあり、3人同時に引かないといけない。』4人しかないのに…』」

ミッション6…暴走列車を止める！

現在平梅駅へと暴走列車が走っている。

中には大量の毒ガス集団とハンター10体が乗っている。

ゲーム終了残り10分になると列車は平梅駅へと到着して、放出される。

毒ガス集団の毒を嗅いしまうと1分間その場から動けなくなってしまう。

またハンターも10体追加され、合計16体となってしまう。

阻止するにはエリア内のどこかにあるレバーを3人同時に引かない

といけない。

美琴「ここに来てこんなに難しいミッション…！」

現在の逃走者は4人のみ。

レバーを引くのに3人必要なため、このミッションは逃走者にとつてかなりきついものとなっている。

美琴「行くわよ！4人しかいないもの！」

ミッションに参加するのは御坂美琴、

律「梓？当然このミッション参加するよな？」

梓「当たり前です！」

律「だよな！」

田井中律、中野梓、そして…

憂「へりも居なくなつたし…行かないと間に合わない気がします…！」

今まで全く動かなかった平沢憂の4人が、つまり全ての逃走者が参加するようだ。

現在ゲーム終了まで残り23分だが間に合うのか！？

美琴「さっきまで人が居たのに…今全然居ないわね…」

市民達は毒ガスを恐れて全員非難したようだ。  
平梅市に残っているのは逃走者のみ。

美琴「エリア内と言っても広すぎるわよ…」

逃走エリアは東京ドームおよそ13個分の広さ。  
この中から探すためには全員の協力が不可欠である。

律「一旦別れよう！梓は平梅城を探してくれ！私は川からここまで  
の道のりを辿って探してくる！」

梓「分かりました！先輩がんばってください！」  
律「おうよ！」

2人居たほうがレバーを引く際に有利となるが、そのレバーを探す  
となれば不利だ。

ここは一旦別れて、レバーを探す事にしたのであった。

「牢獄トーク」

竜児「しかしこのミッション難しすぎるよな…」

秀吉「同感じゃ…逃走者4人全員が協力しないと難しいみたいじゃないか…」

ぽぶら「ただあの4人なら大丈夫だよ！絶対行ってくれるよ！」

現在牢獄内には15人の確保者がいる。  
ミッションについて話しているようだ。

唯「憂大丈夫かな…」

漣「ここまで律も残っているのがすごいよな…」

紬「梓ちゃんも復活できたし…」

現在の4人の逃走者中3人は「けいおん！」からの人物。  
その内1人は敗者復活者である。

美波「まあ折角だからがんばってもらいたいよね！」

明久「…」

ちなみに裏切り者である吉井明久は牢獄に帰ってから酷い目にあったらしく、何も喋れない状況である。

穴があつたら入りたいとはまさにこの状況。

明久「（後20分もこの中に居られるかよ…！）」

自業自得だ…

憂「この辺にあると思う…」

平沢憂が探している場所は平梅駅前記念公園。  
ミッション1でエリア拡大ボタンがあつたあの場所だ。

憂「今回くらいは参加しないと…ただでs…！」

彼女の動きが急に止まった。  
その理由は…

ハンター「…」

遠くにハンターを見つけたからだ…。

憂「…」

息を殺してその場に身を潜める憂。  
幸いハンターはこちらに気づいていない。

憂「これだから中々動けないんだよね…」

律「参ったなー全然見つからないよ…」

平梅城を抜け出し、梓とは違う場所を探す田井中律。  
そんな彼女の近くに…

ハンター「…」

ハンターが…

律「他の2人が探してくれればすぐに見つかるはずだけど…」

しかし律はハンターに気づいていない。

どうやらレバー探しに夢中のようなのだ。

ハンター「…！」

そしてついにハンターに気づかれてしまった…。

律「この寺の中とかは…ってか入れないか…ってハンター来てるじゃん！」

やっとハンターに気づいた律。

しかしハンターとの距離は近い。

律「まずいつて…ここで捕まったら…あ…」ポンッ！

気づくのが遅かった…。

律「これじゃあ誰かが捕まったら強制的にミッション失敗になっちゃうよ…」

ここでの確保は他の逃走者にとっても痛い。

できればミッシヨンの間は捕まりたくなかった律であつた…。

【田井中律 安井寺付近で確保 残り3名】

プルルルル！プルルルル！

梓「メール…律先輩が確保された…！」

美琴「まずいわね…これで全員が参加しないと！」

憂「律さん…」

これで全員がレバーを引かないといけない状況となつた。  
誰か一人でも欠けたらその時は…終わりだ…。

ミッション6 Part1 暴走列車を止めろー (後書き)

よく「…」、「(え」などの「)」を多用します。  
文章力がないのがすぐわかりますね…

そしてついに律が確保。  
残り3名となったが…？

## ミッション6 Part2 レバーを見つけろー！ (前書き)

脅威の1日3連発。

自分でもなんでこんなに書けたか分かりません(え

## ミッション6 Part2 レバーを見つけるー

ゲーム終了まで残り17分。

逃走者は中野梓、平沢憂、御坂美琴の3名のみ。

ミッション6を成功させるためには全員が協力しないといけない。  
果たして間に合うのか！？

梓「見つからないよ…」

平梅城内をくまなく探す中野梓。  
しかしその努力も実らず、レバーは見つからない。

梓「早く見つけないと…！」

残り7分で毒ガス集団が放出される。  
たとえ運よく生き残ったとしても、9分の間ハンター16体から逃げるのはほぼ不可能だろう。

梓「最悪の事態だけは防ぎたい…！」

憂「もしかしたらここかも…」

平梅駅前へと来た平沢憂。

いつもはにぎわうここも今は全く人がいない。  
店の中も駅の中にも誰も居ないのだ。

憂「なんかこれはこれで不気味ですね…あれ？」

何か発見した憂。

その視線の先には…

憂「もしかしてこれがレバー！？」

逃走者が今一番見つけたい物、レバーであった。

憂「嘘…私が見つけれるなんて…とりあえず電話しないと…！」

あまりのうれしさに動揺を隠せない憂。

それでも電話しないと他の2人は来てくれないため、一旦冷静になる。

プルルルル！プルルルル！

梓「まさか確保…って憂からか…もしもし？」

憂「梓ちゃん！レバー見つけたんだよ！」

梓「本当ですか！すごいじゃないですか！」

憂「レバーは平梅駅前にある。慌てずに来てね！」

梓「わかった、ありがとう」

なんとか電話を終えた憂。

しかし梓の居る場所は…

梓「平梅駅までかなり遠いよな…なるべく急がないと…」

少なくとも平梅駅から1km以上はある平梅城であった。  
果たして間に合うのか!?

その後は美琴にも緊張しながら電話で用件を伝え、来てもらうように頼んだ。

幸い美琴は平梅駅からそう遠くはないようだ。

憂「捕まったら元も子もないから…どっかに隠れよう…」

そして近くの電話ボックスの後ろに隠れる事にした。

電話ボックスから自首はできるが、それは他の逃走者への裏切りに値する。

彼女だってそれは絶対にやってはいけない事だと十分にわかっている。

憂「なんとしても生き残らないと…」

美琴「平沢さんには本当に感謝しないとね…とりあえず駅へ向かわないと」

今までミッションには参加してきたが、やはりいいところがない御坂美琴。

今回は間違いなく貢献できる状況だ。

美琴「絶対にがんばらないといけない場面だもんね…」

そんな彼女の近くに…

ハンター「…」

ハンターが…

美琴「もう2人集まって」…やばっ…！」

ハンター「…！」

気づかれてしまった…！

美琴「なんとしても逃げないと…！」

ここで捕まったらこのミッションは強制失格となってしまう。  
だからなんとしても美琴はここで逃げないといけない。

ハンター「…？」

そしてなんと本日2度目のハンター追跡を阻止した。  
能力は使えないとしてもさすがは運動神経抜群である。

美琴「とりあえず急がないと…！」

く牢獄トークく

漣「律、お疲れ」

律「おお、がんばったんだけどな…」

牢獄に律が到着してこれで中には16人。

やる事が特にないので相変わらず雑談で盛り上がっている。

瑞希「結局レバーは見つかったんですか？」

律「それがまだなんだよね。私が確保されたから3人だし…大丈夫なのだろうか…」

やはり確保が悔しい律。

誰よりもミッションに参加して、貢献してただけに悔しいのだから。

撫子「もう残り3分弱…」

大河「これじゃあ毒ガスばら撒かれるわよ！」

当麻「その間うちらはどうなるんだろうな…」

余談だがこの牢獄には毒ガスがまわってこないようにしてあるために彼らには影響は全くない。

律「頼むぞ梓、憂、そして御坂さん…！」

捕まった以上ただ祈る事しか出来ないのだ…。

駅前の電話ボックスの後ろで身を潜めているのは平沢憂。彼女は残りの二人の到着を待っているのだ。

憂「あれは…」

憂が見つけた人物。  
それは…

美琴「本当にレバーあるわね…！」

御坂美琴だ…！

憂「御坂さん！こちらです！」

美琴「あ、電話ありがとうね」

憂「とんでもないです…」

美琴「ところでもう一人はまだ来てないの？」

憂「はい…もうそろそろ来ると思います」

美琴「そうか…じゃあ私は違う場所に隠れているわね。同じ場所に

2人は難しい気がするし…」

憂「是非ともお願いします」

こうして一旦憂と美琴は分かれる事になった。

しかし平梅駅前で両方待っている事は事実。

後は梓の到着を待つのみとなった。

梓「もうそろそろ…」

しかし彼女は2人を待たしている事に気づいていない。

ゲーム終了まで残り2分。

現在彼女がいるのは平梅駅近くの「ウルトラホテル」の交差点。  
果たして間に合うのか！？

## ミッション6 Part2 レバーを見つけてー (後書き)

ついに次回ミッション6 終結。

果たして梓は間に合うのか？

それとも…

ミッション6 Part3 衝撃の結末に……！ (前書き)

本当に今日は筆が進みますね。

恐ろしい……こんな自分が恐ろしい……

## ミッション6 Part3 衝撃の結末に…！

ゲーム終了まで残り12分。

ミッション6終了まで残り2分となっている。

現在平沢憂、御坂美琴の2人は平梅駅前に居るが、中野梓はまだ到着していない。

果たして間に合うのか！？

毒ガス集団とハンター10体に乗せた暴走列車は着々と平梅駅へと向かっていた。

夫人「もうそろそろ平梅駅ね…これで雄二の夢が叶う…！」

愛する夫のためならなんだってしてしまう坂本旧市長の妻。  
たとえそれが悪い事だとしても…だ…。

美琴「まずいわね…このままだと本当に最悪な展開しか待ち受けてないわ…」

平梅駅前にある定食屋の看板の後ろに隠れている御坂美琴。  
あまり隠れる場所として最適ではないがここぐらいしかこの辺で隠

れる場所はないからだ。

美琴「ミツシヨン失敗したら…間違はなく捕まるわね…」

毒ガスを嗅ぐ事で1分動きが停止してしまう。

運がよければ捕まらないが美琴がいるのは駅前。

あつという間に倒れているところを見つけられて確保されてしまうのが目に見えている。

美琴「さすがに私でもハンター16体から逃げられないわよ…」

起き上がったも待ち受けるのはハンター16体。

いくら走るのに自信があると言っても無理がある。

美琴「残り1分…大丈夫なのかしら…」

そして肝心の梓はと言うと…

梓「ついに…駅前が見えました…！」

平梅駅前へと到着していた。

平梅城からの遠い道のりをがんばって走ってきたのである。

憂「梓ちゃん！こっちです！」

憂も彼女を発見したようだ。

それにあわせて美琴も看板の後ろから出てくる。

この時ゲーム終了まで残り30秒。

もし憂が先に美琴の方に電話をよこしていたら間違はなくミッシェンは失敗していただろう。

中野梓に先に電話をしたお陰でぎりぎり到着する事が出来たのであった。

やはり平沢憂……なにかを持っているのかもしれない。

美琴「じゃあいくわよ！せーのっ！」

梓・憂「えいつ！」

ガコンツ  
：  
！

そしてこの瞬間……

キキツー————！

夫人「…！？なんで電車が止まった…！？」

平梅駅に後もう少しで到着するところで暴走電車が止まった。これで毒ガス集団とハンター10体は出れなくなった…！

MISSION CLEAR

梓「私もうだめです……ここで休んでいます……」

ずっと走ってきたから疲れたのだろう。

中野梓はレバーを背にして後ろで休む事にした。

美琴「とりあえずミッション成功よ！」

憂「はい！なんとかがんばりました！」

ぎりぎりでミッション6を成功した偉大な勇者達。  
しかしその3人に…

ハンター「…！」

ハンターが気づいた…！

美琴「ハンターが来てるわ！逃げるわよ！」

憂「はいっ！」

梓「…」

一斉に逃げ出した美琴と憂。

梓は体力の限界なのかそこから一步も動けない。

ハンター「…」

そしてハンターが目をつけたのは…

憂「まずい…！」

平沢憂だ…！

梓「憂…がんばって逃げてください…！」

なんとか終われなかった梓。  
疲れているが必死に友人を応援する。

憂「ハンター速いつ…！」

しかしハンターの方が全然速い。  
あっという間に距離を縮められてしまい…

憂「…あつ…！」ポンツ！

捕まってしまった…。

憂「でもまだ梓さんだって御坂さんだって残ってます。最後に貢献できてよかった…！」

捕まっても優しすぎる…女。

【平沢憂 平梅駅前交差点付近にて確保 残り2名】

美琴「平沢さん…あんなに活躍したのに…！」

いくらミッションで貢献しようが捕まってしまったら全てが終わる。  
これが逃走中なのだ。

車で逃走していた旧市長と土屋秘書。  
彼らはとあるビルに身を潜めていた。

旧市長「ふふ…これで毒ガスがばら撒かれれば平梅市は崩壊する…  
！私の夢も叶うのだ…！」  
秘書「…」

そしてここで坂本旧市長の携帯電話が鳴る。  
相手は夫人の翔子からだ。

旧市長「きつとうまくいったのだろう…もしもし？」  
夫人「なんとか成功した…今からそちらへ向かう…」  
旧市長「そうか、それは楽しみだ！気をつけて来いよ！」  
夫人「ええ…」

どうやら計画が成功したとの報告だった。  
これで今頃平梅市は毒ガスによって崩壊しているだろう…そう確信  
していた。

しかし数十分後…

コンコン…

部屋にドアのノック音が響いた。

旧市長「やっと来たか…待ちくたびれた『手を上げろ！』…なんだ  
と…」

彼がドアを開けると待っていたのは大量の警察官。

毒ガス対策など全くしていない様子であった。

旧市長「どういうことだ！なんでお前らは無事なんだ！」

警視長「それはこの人に言ってもらおうか…ちよつとあいつを呼んで来い！」

警察官A「はいっ！」

警視長が警察官がに呼んできてもらった人物。  
それは紛れもなく彼の妻であった…。

旧市長「しょ…翔子…」

夫人「ごめん…なんか知らないけど急に平梅駅前で列車が止まったの…そしたら一斉に警察官が中に入ってきて…」

旧市長「…クソっ！」

警視長「そういうわけだ。今も調べている途中だがあの列車には何の異変もなかったそうじゃないか」

旧市長「え…それはどういうことだ…」

警視長「俺にもわからないな、まあお前らは運が無かったってことだな」

旧市長「どうしてなんだ！どうしてなんだああああああああ！！」

こうして旧市長の坂本、その夫人、そして秘書は逮捕された。

後に毒ガス集団関連の会社が潰れたという情報もあったがそれはまた別の話。

かくして平梅市に平和がまた訪れる事となったのだ…。

ミッション6 Part3 衝撃の結末に…… (後書き)

ミッション6も完結。

そしてドラマパートも完結。

ドラマパートは本当に自分でもなに書いたか分かりません。

ゲーム終了！（前書き）

脅威の5連発。

自分でも驚いている限りです。

ゲーム終了！

ついにクライマックス。

ゲーム終了まで5分をきった…。

残りの逃走者は…

梓「とりあえずあっちのほうに行きましょう…もう回復できました！」

OPゲームで上条当麻の巻き沿いを喰らって誰よりも早く確保されたが、その後の敗者復活でただ一人復活した中野梓…！

美琴「後5分くらいなんて楽勝よ…私はいままで135分間逃げ切ったんだからさ」

そしてこれまで二度もハンターを撒くなど驚異的な運動神経を誇る御坂美琴のただ二人…！

逃げ切れば144万円、しかし捕まれば…0円…！

梓「駅前だとハンター来たら困るよね…」

先ほどまでレバーの後ろに隠れていた中野梓。

平梅城から走ってきたために体力の限界が来ていたのだ。

梓「逃げ切る自信はあります！敗者復活者の意地を見せます！」

今は小道が入り組んでいるワンダーランド付近に身を潜めている。  
確かにここだとハンターに見つかった際に逃げやすいが、小道が多いのでハンターが急に現れる可能性もありえる場所なのである。

梓「桜が丘学校代表としてがんばります！」

ゲーム終了まで残り3分。

御坂美琴は平梅駅前記念公園にいた。

美琴「ここに隠れてれば少しは安全でしょ……」

ちなみに木を登って隠れる事は当然ながら禁止されている。  
かくれんぼではなく鬼ごっこなので当然だ。

美琴「それにハンター来ても撒けるわよ……」

2度ハンターを撒いた脚力はさすがに馬鹿にできない。  
今回の逃走者の中では美乃梨に続き優勝候補として期待されているだけある。

しかしそんな彼女の背後に……

ハンター「…」

ハンターが…

美琴「この辺n…あれハンターじゃない…？」

ハンター「…！」

そして見つかった…！

果たして逃げ切れるのか！？

捕まれば当然賞金は…0だ…。

美琴「距離あるし大丈夫よ…！」

ハンターに追われても余裕の美琴。

しかし逃げた先にも別のハンター…

美琴「ええええええええ！そんなのってアリなの！？」

さすがに2体来られたら美琴にもどうしようもできない。  
それでも諦めない美琴…

美琴「はあ…はあ…ああああ！」ポンッ！

優勝候補が…散った…。

美琴「ハンター多すぎるわよ…なんで都合よくいるのよ…！」

【御坂美琴 坂下デパート付近にて確保 残り1名】

当麻「『御坂美琴確保！残り1名！』」

撫子「あんなに速かった人が…」

律「残りは梓か！？」

唯「すごいね！敗者復活から勝ち上がったんだよね！」

憂「梓ちゃん！がんばって！」

ゲーム終了まで残り1分30秒。

残るは中野梓ただ一人…！

彼女を狙うのは6体のハンター…！

ハンター「…」

果たして逃げ切れるのか！？

梓「残り1分弱…絶対にいける…！」

ワンダールランド付近を動かない梓。

周りにハンターがいないか注意深く見ている。

ゲーム終了まで残り1分…

竜児「残り1分！」

漣「すごいよ梓は…」

紬「梓ちゃん！がんばって！」

牢獄の人も遠くから応援している。  
ただ一人残っている逃走者…梓の逃走成功を祈って…

ハンター「…」

しかしエリア内のハンターに捕まれば…ここまで積み上げてきた賞金を全て失ってしまう…！

ゲーム終了まで残り30秒…

梓「やばい…手が震えてきたよ…」

手が震えながらも周りを見渡す梓。  
まだハンターはいないようだ…。

大河「がんばれ！」

美波「折角ここまで来たのだからがんばりなさいよ！」  
美乃梨「おおよ！敗者復活者の意地を見せたれ！」

そしてゲーム終了まで残り…10秒…

ハンター「…！」

どうやらハンターが遠くに梓を発見した模様。

9！

8！

梓「…！来てる…！」

そして梓もいち早く気づいたようだ…！

7！

6！

ハンター「…」

ハンターとの距離はまだある。

果たして逃げ切れるのか！？

5！

4！

3！

2！

1！

梓「もしかして私…！」

0！

梓「やったあああああああああ！やりました先輩！」

逃走成功

中野梓 賞金144万円獲得

ハンターに最後に追われながらもワンダーランド付近特有の小道が入り組んでいるという場所を上手く利用して逃げていった梓。見事逃走成功した。

秀吉「お主…よくがんばったのじゃ！」

美琴「すごいわ…途中参加といえども最後まで逃げ切ったのは天晴れよ！」

律「そうだぞ！部長として誇りが高い！」

梓「やめてくださいよ先輩…」

牢獄の皆からの祝福を浴びて、帰ってくる中野梓。

そして牢獄前の箱の南京錠を解いて、中に入っている合計144万円を手についた。

唯「あずにゃん！その札束で、ほっぺを殴って下さい！」

梓「本当にいいんですか？」

ペシッ！

唯「幸せ！」

梓「相変わらずですね…先輩は…」

そして逃走成功後のお決まりの言葉…

梓「144万円取りました！」

他の18名「おめでとおおおおお！」

画面に映し出される144万円を獲得した中野梓。  
そして次の瞬間画面には…

新規データを保存しますか？

YES NO

??「…」

謎の人物がYESにクリックしたのだった…。

??「ふふふ…次の企画が楽しみだな…」

俺得アニメキャラオールスターで逃走中！ 完

ゲーム終了！（後書き）

ついに完結となりました。

これも皆さんの応援あってこそです。

本当にありがとうございます。

まだ話は続きます。

エピソードなり。。中なりを予定しています。

是非ともお楽しみください。

## エピソード（前書き）

一回エピソード書いたのに消えました…。  
超落ち込んでました…（´・ω・｀）

## エピソード

中野梓が144万円を獲得して終わった今回の逃走中。

その打ち上げとして平梅市の某ファミレスに一行は来ていた。

逃走者だけではなく、ゲストキャラもそこにはいる。

そしてどうやらそのファミレスで好きに食べていいと言う事になっていたのだ。

これは一体…？

梓「でも誰なんでしょうね、この人数は結構ですよ？」

律「恐らくあいつだよな…」

憂「はい、あの人だと思います…」

二人が頭に浮かんだ人物…それはミッション4終了後の休憩の際に現れた謎の人物である。

唯「えゝなんで二人だけ知っているの？」

紬「そんなのずるいわりっちゃん、憂ちゃん！」

律「分かったよ…教えるから落ち着いてくれ…」

今日もH・T・Tは平和である。

インデックス「とーま！今日はたくさん食べるんだよ！」  
当麻「まあ別にいいが慌てるなよ？」

一番張り切って食べているのはインデックス。  
普段はファミレスなど行かない上にこんなにたくさん食べられる機会などないからだ。

美琴「…楽しそうね（ボソツ）」

そしてそれを遠くから見ているのは御坂美琴。

彼女は一人でパフェを食べている。

そんな彼女のテーブルに千石撫子が来た。

彼女は『化物語』から唯一の参加者。

友人などがいないために同じように一人である彼女のところへと行ったのであった。

美琴「千石さんは好きな人いるの？」

撫子「私は曆お兄ちゃんかな」

美琴「曆さんって言うのはあなたのお兄さんなの？」

撫子「正確には友人のお兄ちゃんなんだけど…」

美琴「そう…あなたにも居るんだね…」

撫子「御坂さんも居るんですか？」

美琴「まあ…一応ね…」

これで少しは美琴も元気になったのは言うまでもなかった。

明久「美波様！僕にも何か食べる権利を与えてください！」

美波「だめよ！あなた他の人に迷惑をかけたじゃない」

明久「あんだだけ反省したのにまだダメなんですか！」

秀吉「残念じゃが…仕方ないのお…」

雄二「ああ、当然の報いだ」

康太「（…コクリ）」

明久「秀吉まで…しかしお前に言われたくないぞ雄二！第一参加者じゃなかっただろ！」

雄二「まさかお前がそんなことをするなんて思わなかったぜ…さすがに…」

明久「ちきしょおおおおおおお！」

言いたい放題の皆…。

しかし姫路瑞希だけは違った…。

瑞希「さすがに明久君がかわいそうですよ…あんだけ反省したんだし…」

明久「姫路さん…」

瑞希「今食べられない分、後で私が後で料理を振舞いますので…」

明久「（そ…そんなあああああああああ！）」

雄二「良かったじゃないか明久。」

美波「（瑞希だけずるい…）」

明久「（不幸だあああああああああ！）」

相変わらずのバカ騒ぎであるバカテス組であつた…。

美乃梨「盛るぜ！盛るぜ！超盛るぜ！」

竜児「そんなに食べて大丈夫なのか？」

美乃梨「腹が減っては戦はできるのだよ、高須君！」

亜美「もう戦は終わっているだろ…」

大河「そういえば北村君はどこにいたの？」

北村「ん？新市長の役をやってたんだよ。ヘリで飛んだぞ？」

大河「そうだったの！？」

全員が北村君が新市長だということを知らなかったとらドラ組…

ぽぶら「皆にぎやかだねえ…」

まひる「あ…このデザートおいしい…！」

ぽぶら「それはこの地区限定のデザートみたいだね！私も頼もう！」

そして純粋にティータイムを楽しんでいたWORKING！！組がそこにはいた…。

こうして打ち上げは終了した。

わずか1日だったが皆は仲良くなっていた。

当然別れもあれ、その後はそれぞれ送迎バスで帰って行っただのだった…。

律「そういえば144万円どうするんだ？」

梓「そうですね…やっぱり貯金ですかね？」

律「律儀だな…」

梓「でもこんだけのお金家に持ち帰ったらびつくりするよね…」

律「そりゃあ女子高生が144万円持ち帰ってきたら誰だってびつくりするけどな…」

俺得アニメキャラオールスターで逃走中！ エピローグ 完

## エピソード（後書き）

エピソード終了。

続いては未公開シーンである。中です。

逃走者は一体あの時何を思ったのか？

舞台裏を覗いてみましょう。

未公開シーン？、？ 反省中、獲得中（前書き）

舞台裏シリーズその1。

ハンターに捕まった逃走者は何を思ったのか？

そしてハンターから逃げた逃走者は何を思ったのか？

## 未公開シーン？、？ 反省中、獲得中

・OPゲームにて捕まった中野梓

梓「これもくじ運が悪かったのかも…なんにしてもついてないよ…。第一ハンターが速すぎるよ…。OPゲームもやっていないのに捕まるって悲しすぎるよ。ゲームに全く関わってないのにハンターに捕まったわけだからね…。本当に悔しい。これから120分牢獄で待つてないといけないんだよね？つらいな…」

・裏切り者に通報されて捕まった川嶋亜美

亜美「裏切り者見つけたら後でぶっ飛ばしてやる…。ってかこんな事に立候補する人なんているんだね。やっぱり世の中金ってか？そのためなら人を裏切るのか？いや…そんなやつに協力したくなかったけどな。これで裏切り者は10万円獲得でしょ？なんか腹立ってきたわ…」

・ミッション1の時に捕まった琴吹紬

紬「あの時周りをちゃんと見ていれば…！唯ちゃんとの電話でつい気を抜いてたわ。別にお金が欲しいとかそういうことじゃないんだけどこれができるのが一番きついわ…。確かこの後ずっと牢獄にいるんですね？でも梓ちゃんがいるからまだ安心できるかも

…」

・ミッション１クリア後に通報されて捕まった櫛枝美乃梨

実乃梨「いい事したのにな…。こういうのは動かないほうが得策だったか？ いや…。きっと間違いではなかったと思う。けどまさか通報されるとは思わなかったよ。別に挟み撃ちになったわけじゃなかったからな…。こりゃあもつと体力づくりしないといけないみたいですな！」

・ミッション２の時に捕まった秋山澪

澪「もつと周り見たほうがよかった…。ハンターの怖さを常に意識しないとイケなかったな。つい律が来てくれる事で安心しちゃったのかも。でもハンターから追われなくなっただけなんか気が楽になった気がする。これから暇になっちゃうけど…」

・ミッション３の時に捕まった姫路瑞希

瑞希「ミッションも参加できず…。何もできないまま終わっちゃった…。やっぱりここで待ってたのが間違いだったのかなあ…。結構距

離はあつたはずけどやつぱりハンターは速いよ…。ハンター2体追加が結構大きかったみたい…。それにしても明久君や美波ちゃん  
はハンターにも恐れずにミッション行つたのがすごいなあ…」

・ミッション3クリア後に通報されて捕まつた伊波まひる

まひる「殴りたい…。でも…。我慢できた！これも小鳥遊君のお陰だよ！後でお礼をもう一度言っておかないとな…。しかし裏切り者って誰だろう？まさかばぶらちゃんなわけないから…。もしかして憂ちゃん？それもなんかありえる気がしてきたな…。まあもう出番は終了したし後は待つだけだね…」

・ミッション4の時に捕まつた木下秀吉

秀吉「何にもしてない…。何にもしてないのじゃ…。ただこの公民館の近くでずっと動かないでいただけじゃ…。これじゃあ逃走中の意味が全くなつてないの…。折角のミッションだったから行けばよかったのかのお…。まあ悔やんでも仕方ないのじゃ。」

・ミッション4の時に捕まつた逢坂大河

大河「え…終わり？ハンターなんていたの？うわ…ビンゴに夢中で気づかなかったわ。ってか気配が全く感じなかった。ゲームセンターの怖さってこれなんだね。ゲームに夢中になる上に周りがるさいから今のようになるのね。」

・ミッション4の時に捕まった島田美波

美波「悔しいわ…本当に悔しい…。あの交差点長かったわね…それが原因なのかもしれない。とりあえず御坂さんは大丈夫だったかな？恐らく彼女は運動神経いいみたいだし大丈夫だと思うけど…。これで知っている人で残りは明久だけか…。ゲーム得意そうだし今頃クリアしているに違いないわね」

・ミッション4失敗で捕まった種島ぽづら、平沢唯

ぽづら「さすがにハンター多すぎるよねこれ…」

唯「コイン100枚集められなかったから仕方ないよね」

ぽづら「うん、なんで皆はあんなにすぐ集められるんだろうって思っただけ…」

唯「メール見る限りは6人残っているんだよね」

ぽづら「私と唯ちゃんとあと当麻君がダメだったってことだよな」

唯「うん、でも楽しめたし私は満足だよ！」

ぽづら「そうかな？私はもつとやってみたかったけど…」

唯「もう疲れちゃったしこれくらいがいいんだよ」ぽづらちゃん！」

ぽぷら「そ…そうなの？」

・ミッション4失敗で捕まった上条当麻

当麻「不幸だ…。あと一歩だったんですよ？上条さんはこんなところでも不幸なんですかね？道理でOPゲームとかコイン100枚集められた事に違和感を覚えていたところだったんだ…。だけどビリビリは成功したんだろ？さすがはお嬢様ってところかね…」

・ミッション5の時にヘリからの通報で捕まった千石撫子

撫子「いきなりこんなにハンターが来るなんて…。きっとヘリからの通報だったに違いない！うゝん…でもおいしい物食べれたし満足かな？あんなに豪華な物は今まで食べたこと無かったよ。TVで見るような物ばかりだったしね…」

・ミッション5の時にヘリからの通報で捕まった高須竜児

竜児「でもこれで中野は平梅城に行けたはず…！まあ俺はこれで失格なんだけどな。どうせなら144万円持ち帰りがかったところだが…仕方ない。ただ問題なのはヘリがまだ中野を追ってないかって

事だよな。俺を追ってくればそれはそれで助かる。とりあえず託すしかない……」

・ミッション5終了後に捕まった裏切り者、吉井明久

明久「僕の金がああああああ！折角心を鬼にしたというのに！これじゃあ牢獄に帰っても居場所がないじゃないか！改めて考えるとなんでこんな事やつちやっただろ！？うわああああああ！嫌だよ！僕はあんなところに行きたくないよ！」

スタッフ「ルールなので認めません」

明久「不幸だああああああ！」

・ミッション6の時に捕まった田井中律

律「これじゃあ誰かが捕まったら強制的にミッション失敗になっちゃうよ……。ここはせめて手がかりでも残して散りたかったな……。これで残りは梓と憂ちゃんと御坂さんか。梓と憂ちゃんって1年じゃん……すごい話だよ。そして御坂さんって確か中学生だった？あんなにマジメそんな人が中学生っておかしいよな……」

・ミッション6クリア後に捕まった平沢憂

憂「でもまだ梓さんだって御坂さんだって残ってます。最後に貢献できてよかった…！何もしないで終わってたらダメだもんね！お姉ちゃんだって前半に貢献したんだから私もやらないと！とりあえず最低一人は逃げてほしいですね。是非ともがんばってもらいたいです！」

・ゲーム終了2分頃に捕まった御坂美琴

美琴「ハンター多すぎるわよ…なんで都合よくいるのよ…。はぁ…油断してたわ。いくらエリア広いつて言っても6体いるもんね。1体だけだったらきつと逃げれたのだけれど…。しかしアイツには勝ったわ！それだけで十分よ！」

・逃走成功となった中野梓

梓「やったあああああああああ！やりました先輩！まさか私が逃げれるとは本当に思いませんでした！これは夢じゃありませんよね？それくらいいいです！OPゲームの時絶対ダメだと思ったけど諦めなければ大丈夫なんですネ！敗者復活も運がよかっただけです。ただミッションの際に他の人にはかなり迷惑をかけたのかな…って。そして色々な人に支えてもらったからこそ賞金も取れたかなって思います。とりあえず一度お礼を言っておきたいですね」

未公開シーン？、？ 反省中、獲得中（後書き）

リリカルさんのかぶつてますよね…。

一応許可はもらいましたがダメでしたら遠慮なくどうぞ！（

**未公開シーン？ 牢獄中（前書き）**

思ったより時間がかかってしまった。  
そして今回は牢獄中。  
牢獄に居る時何を思ったのか？  
注目してみてください。

## 未公開シーン？ 牢獄中

OPゲームで一番初めに捕まってしまった中野梓。  
彼女は牢獄へと案内された。

梓「120分ここはきついよ。誰もいないもん…」

確保されるとはそういうことだから仕方ない。

梓「誰か来ないかなー…先輩とか一人でも来てくれたら助かるんですけど…」

そして待つこと約10分後…ついに他に確保された人が入ってきた。

亜美「ちきしょう…やっぱり裏切り者ゆるさねえ…！」

梓「（すごく声かけづらい…）」

しかし裏切り者によって通報された川嶋亜美の機嫌は決しているものではなかった。

そのせいか梓は声をかけなかった。

やっと他の人が来たと言うのに非常に残念な話である。

亜美が入ってきて約5分後、牢獄にまた新たな仲間が増えることとなった。

梓「ムギ先輩…！」

紬「梓ちゃん…あなたも不運でしたね…」

梓「はい、おかげさまで…」

紬「まあゆっくり話でもしてのんびりしましょう」

これで梓の機嫌が全然良くなったのは言うまでもない。  
その頃には亜美とも打ち明けて、3人で話すようになっていた。

ミッション2が開始されたのはその直後であった。

裏切り者に通報された櫛枝美乃梨も加わって牢獄の中には4人居ることとなった。

梓「一体どれくらい阻止できるのでしょうか？」

亜美「わからないな…8つくらい阻止できれば上出来じゃないか？」

美乃梨「どうせなら10つ全部阻止したいですな！」

紬「そうですね…」

このミッションに参加した人は合計8人。

牢獄の近くに設置されていたハンターボックスは田井中律・平沢憂によって阻止されていた。

しかしその間に牢獄の目の前で確保された逃走者も中にはいた。

梓「先輩、お疲れ様です」

漣「うう…ハンター怖かったよ…」

紬「漣ちゃん、もう大丈夫だから…」

律の到着の前に捕まってしまった秋山漣。

後にこれが律の原動力となるのだが本人は当然知るはずもない。

姫路瑞希、伊波まひるが加わり、ゲームの方は史上最大の難易度を誇るミッションが行われていた。

亜美「これ難しいってレベルじゃないだろ…。明らかにミッション3でホテル行った奴が損している」

瑞希「確かにこれは難しいですね…」

漣「それにゲームセンターで100枚集めるってのはかなり難しいはず…」

梓「それも20枚からですからね…5倍ですよ？」

牢獄の中でもやはりその難しさは話題になっていた。

まひる「何人成功できるのでしょ…？」

紬「どうでしょうね…5人くらいでしょうか…」

美乃梨「それがありえるかもしれないから怖いね！」

予想通りそのミッションはかなり難しいものであった。

今回のミッションは必ず動かないといけなかったためハンターに見つかるリスクが高まってしまう。

ハンターに捕まった木下秀吉、逢坂大河、島田美波の3人。

そして間に合わなかった平沢唯、種島ぽぷら、上条当麻の3人。  
一気に今回のミッションで6人が牢獄行きとなってしまったのだ。

亜美「ってかまだ裏切り者残ってるのかよ…」

美波「本当にしぶといわね…」

まひる「まだ残っているって事は6人の中の誰かってことですよね？」

当麻「そついう事になるだろうな」

スタッフによって運ばれたのは食べ物と飲み物。  
さすがに長時間待たせるのもきついと判断したからだ。

唯「とは言ってもおにぎりとウーロン茶1杯だけ…」

秀吉「まああるだけマシと思った方がいいのお」

支給されたのはコンビニで買ってきたようなおにぎりと紙コップに入ったウーロン茶1杯。

何もないと思っただけに参加者の皆はありがたく頂いたのであった。

…その間に他の6人が豪華な料理を食べていることも知らずに。

13人の確保者に与えられた敗者復活戦。  
これが真正銘最後のチャンスであった。  
そのチャンスを勝ち取ったのはOPゲームで捕まった中野梓。  
非常にお見事である。

当麻「あの中を逃げ切った人がいるのか…」

唯「さすがあずにゃんだよ」

ぽづら「ハンター多すぎてもはや逃げれる場所なんてなかったの  
にね！」

美波「折角だしがんばってもらいたいものね」

まさに中野梓は彼らの希望の星。

そして残りの12名はまた牢獄の中に入れられたのであった。

ミッション5が開始したのはゲームが再開してから約5分後。  
相変わらず牢獄の中にはぎやかであった。

当麻「あれがそのへりか…」

紬「見つかったら終わりですね…」

漣「そしたらハンターが一斉に追ってくる…怖すぎる…！」

瑞希「確かに怖いですね…」

牢獄からも上空のへりは確認できる。

それがいかに怖いのかは一目瞭然だろう。

なんとかミツシヨンは田井中律と中野梓の活躍によって成功された。

しかしヘリによって千石撫子、高須竜児の2人が牢獄行きとなってしまった。

本来ならヘリが平梅城に落ちていくのを見て盛り上がるはずなのだがそれ以上に盛り上がる事が起こったのだった。

プルルルル！プルルルル！

当麻「吉井明久（裏切り者）確保！残り4名！」

亜美「あいつが裏切り者だったのか…」

美乃梨「なるほど…」

まひる「…」

瑞希「帰ってきたらお仕置きですね…？」

美波「もちろんよ！」

秀吉「（姫路…目が死んでいるのじゃ…）」

そう…裏切り者、吉井明久の確保である。

明久「いやーどうも！」

亜美「ちよつと土下座しろよ」

明久「えっと…よく聞こえなかったのですが？」

亜美「土下座だ、今すぐに」

明久「はい…」

ここは明るく入ろうと決めた吉井明久。

しかしそんな事は許されるはずも無い。

先手を打ったのは美波でもなく瑞希でもなく亜美であった。

亜美「お前がした事…反省してもらわないと困るよな…」

明久「…」

亜美「まあこれはゲームだからな、私もそんなには言わない。とりあえず謝れ」

明久「申し訳ありませんでしたああああああああ！」

亜美「分かればよろしい」

それはそれは素晴らしい土下座であった。

亜美もこれに満足したのか、それだけで制裁は終わった。

しかしまだ終わらなかった。

美波「アキ…分かってるわよね？」

明久「あは…あははは…（モウドウニデモナーレー）」

その後技をかけられた明久は身体、精神共にぼろぼろになっていったそうだ。

瑞希も美波を手伝い、秀吉は彼を助けてくれなかった。

明久は瑞希と美波は見ても通報しなかったと言っていたが問題なのは他人に迷惑をかけたことなので彼が罰を受ける事に変わりはない。無かった。

まさに自業自得であった。

そしてゲームは終了した。

結果は中野梓が一人勝ち…敗者からの下克上である。

秀吉「お主…よくがんばったのじゃ！」

美琴「すごいわ…途中参加といえども最後まで逃げ切ったのは天晴れよ！」

律「そうだぞ！部長として誇りが高い！」

梓「やめてくださいよ先輩…」

紬「いや、梓ちゃんは本当にがんばったよ！」

当麻「元はと言えば俺のせいだからな…悪かったな…」

美乃梨「敗者からの逃走成功はすごい事だ！誇っていいんですぞ！」  
撫子「うん、撫子もそう思うな…」

このように祝福のコメントが絶えなかった。  
そして彼女は牢獄前の箱の南京錠を解いて、中に入っている合計144万円を手についた。

ぽぶら「あんなに1万円札見たこと無いよ！」  
まひる「でかいね…」

144万円を実際に見るとやはり衝撃が隠せない。  
美琴のようにお嬢様は別になんとも思っていないが、普通は誰だつてその厚さにびっくりするだろう。

唯「あずにゃん！その札束で、ほつぺを殴って下さい！」

梓「本当にいいんですか？」

唯「お願い…！」

梓「わかりました…」

仕方なく144万円でほつぺを優しく殴る梓。

ペシッ！

唯「幸せ」

梓「相変わらずですね…先輩は…」

そしてそこには幸せそうにしている二人の姿があったのであった…。

美波「じゃあ中野さん、ここはあなたに一つ締めてもらいましょうか」

梓「!？」

憂「そうだね！折角逃げ切ったんだもんね！」

梓「わかりました。では言わせて頂きます」

いきなりの無茶振りに戸惑った梓。

そして彼女はその144万円を高々と上げてこう叫んだ。

梓「144万円取りました！」

他の18名「おめでとおおおおおおおお！」

こうして逃走中は幕を閉じたのであった…。

俺得アニメキャラオールスターで逃走中！ 未公開集 完

未公開シーン？ 牢獄中（後書き）

もつと明久の罰について書けばよかったとおもっています。  
なんか不完全燃焼で終わった気がする

次回予告中！（前書き）

次回作の予告です。

やっとマップが完成したので投下。

## 次回予告中！

??「来たわね…！」

??「どうしよう…」

??「まじかよ…」

作者、ゆうちゃんのお気に入りキャラクターで行われる逃走中！

前回にも増して7作品34人が逃走劇に巻き込まれることとなる！

??「今度こそ逃げてやるわよ！」

??「今回はどうかな」

前回の平梅市の勇者も数名参加！

他の逃走者との核の違いを見せつける！

??「このままじゃあハンターが出てしまいます…」

??「私の足をなめないでくださいよ！」

さらに今回は予選会を実施。

必ず本戦へと進めるとは限らない…！

??「これが逃走中なんだよ…」

??「こんだけ緊張したのはいままでないよ…」

果たして賞金を獲得できる者は現れるのか！？  
俺得アニメ&ゲームキャラオールスターで逃走中！？  
近日公開予定！

## 次回予告中！（後書き）

この度は「俺得アニメキャラオールスターで逃走中！」を読んでくださりありがとうございます。

こんなにも多くの方に見ていただいたことはすごく光栄に思います。文章力の無さにただただ飽きる私ですが…感想がすごく励みになりました。

感想があつたお陰でこんなにもがんばれた気がします。

本当に皆さんありがとうございます。

次回作でお会いしましょう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5353p/>

---

俺得アニメキャラオールスターで逃走中！

2011年1月28日09時15分発行